



上越市の人口・世帯数の概況

令和6年6月

上越市創造行政研究所

目次

- はじめに
- 1 人口
- 2 人口動態（出生・死亡・転入・転出）の概要
 - 2－1 出生
 - 2－2 死亡
 - 2－3 転入・転出
- 3 将来推計人口
- 4 世帯数
- おわりに

はじめに（データの出所について）

● 人口の値は、統計調査によって若干の違いあり

人口に関する統計調査には様々なものがあります(以下は一例です)。

人口に関するもの	・ 国勢調査（総務省統計局） ・ 住民基本台帳に基づく人口（各市町村） ・ 推計人口（総務省統計局、都道府県）
人口動態に関するもの	・ 人口動態調査（厚生労働省） ・ 新潟県人口移動報告（新潟県） ・ 住民基本台帳移動報告（総務省統計局） ・ 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（総務省自治行政局）

統計調査によって集計方法や時期、定義などが異なるため、データの引用や他の資料の数値と比較する場合などにはご注意ください。

例1) 最新値

国勢調査 2020年
（うち2015年以降は
一部「不詳補完値」を使用）
その他 2015～2023年

例2) 「年」の定義

国勢調査 10月1日基準
新潟県人口移動調査 前年10月～当年9月
厚労省人口動態調査 暦年（1月～12月）
その他、年度（4～3月）の場合もあり

● 地域自治区別のデータは、町丁字（住所）単位のデータをもとに集計

地域自治区は行政区(町内会)単位で構成されていますが、入手できるデータの種類が限られるため、ここでの人口は町丁字単位で集計しています。

このため、合併前上越市の一部の区では、実際の値と若干の違いがあります。

(参考) データによる人口の違い (2020)



出所) 上越市住民基本台帳人口、総務省「国勢調査」

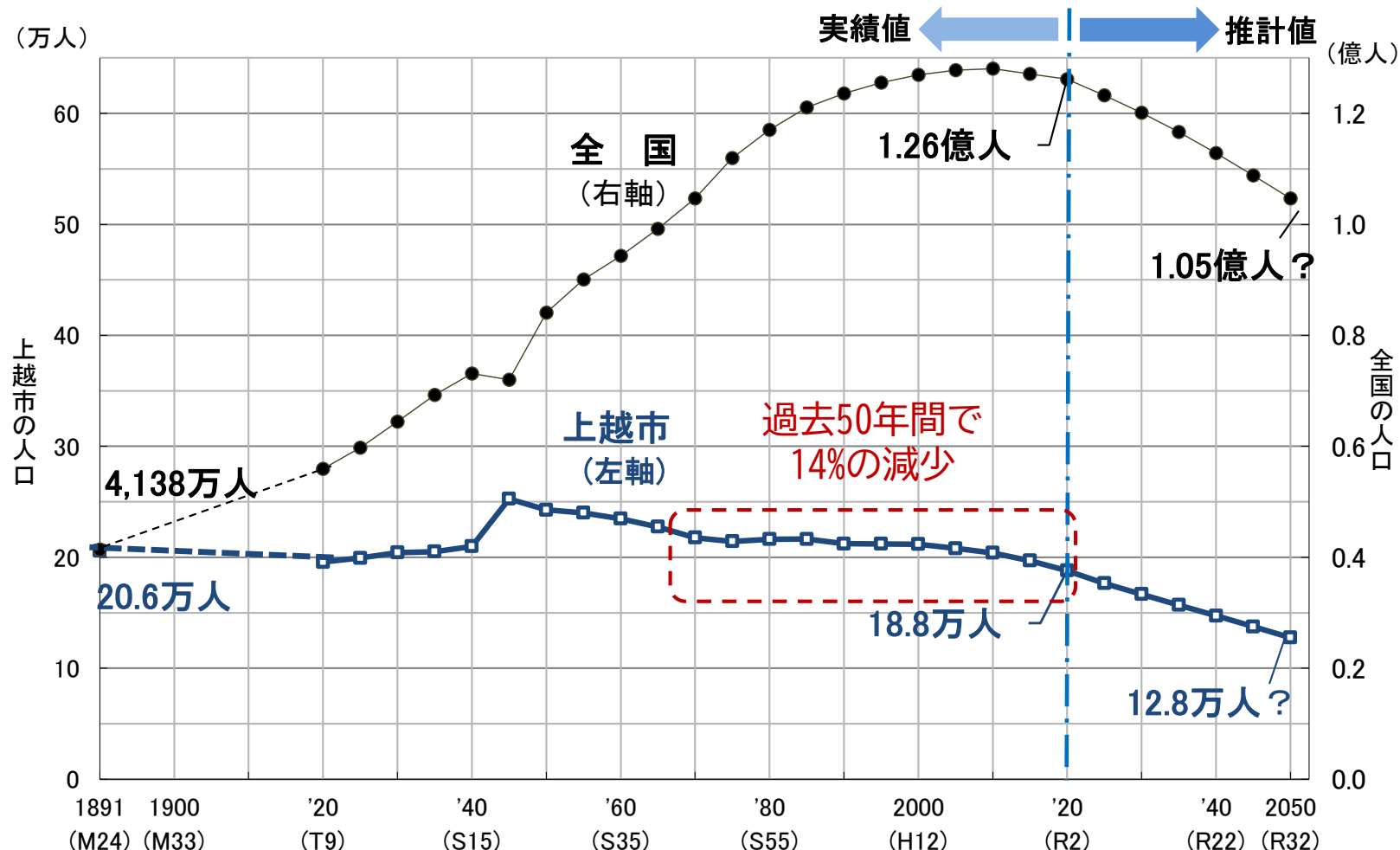
➡ 住民基本台帳に基づく人口（住基人口）の方が国勢調査に基づく人口（国調人口）に比べて1,500人多い。特に19歳人口では 4割以上多い。
（用途に応じたデータの使い分けと解釈が必要）



1 人 □



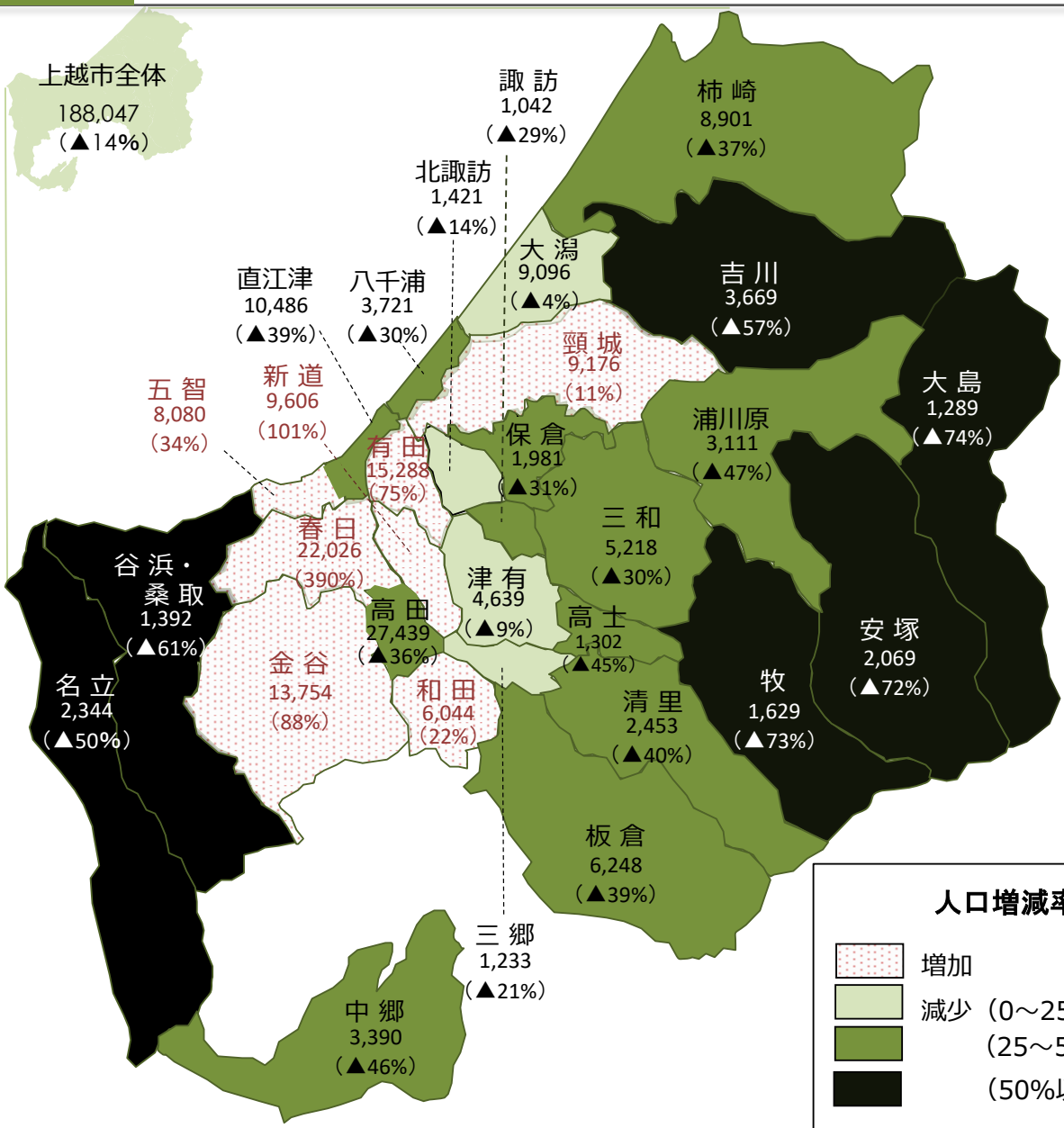
上越市の総人口の推移（1891～2020～2050推計）



出所)陸軍省「徴発物件一覧表」(1891)、総務省「国勢調査」(1920-2020)、国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」(2025-50)

- ☞ 全国の人口は過去120年間で3倍。その後2010年をピークに減少に転換。
- ☞ 上越市の人口は、長期的に見れば横ばいで推移しているともいえるが、近年の減少は加速気味。

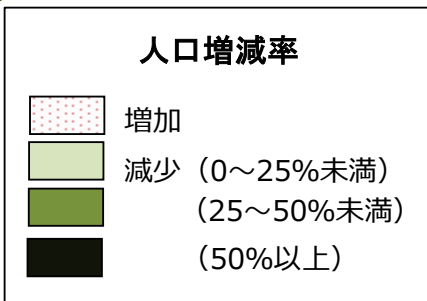
上越市内地区別の人口増減率（1970→2020）



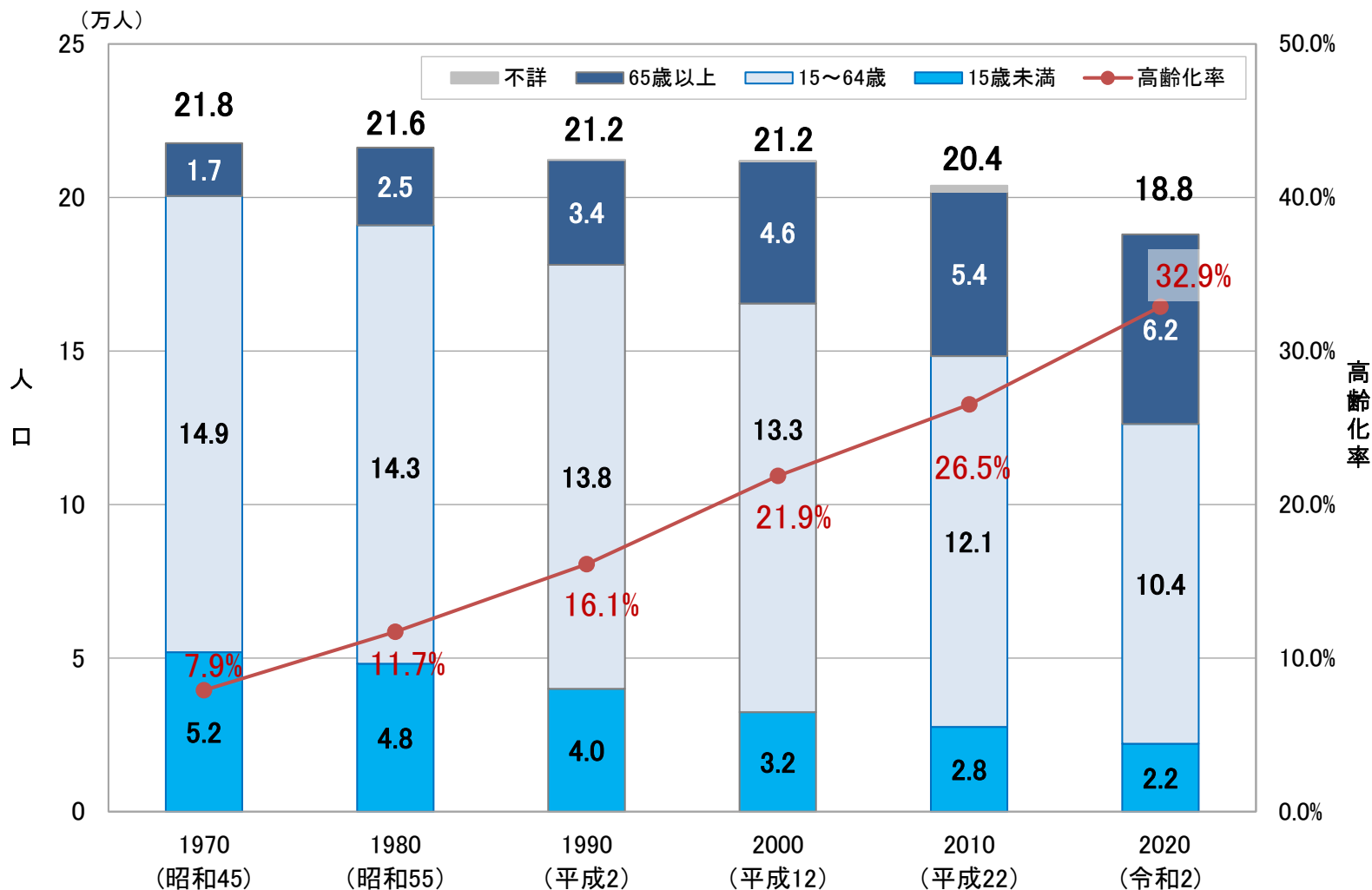
- ☞ 地区によって
増減の程度は様々
- ・ 中山間地域の
大幅な人口減少
 - ・ 中心市街地の人口減少
 - ・ 中心市街地に隣接する
地区での大幅な人口増加

出所) 総務省「国勢調査」

備考) ここでいう地区とは地域自治区のことを指す。
ただし、直江津区のみ直江津と五智に分離



上越市の年齢別人口の推移 (1970~2020)

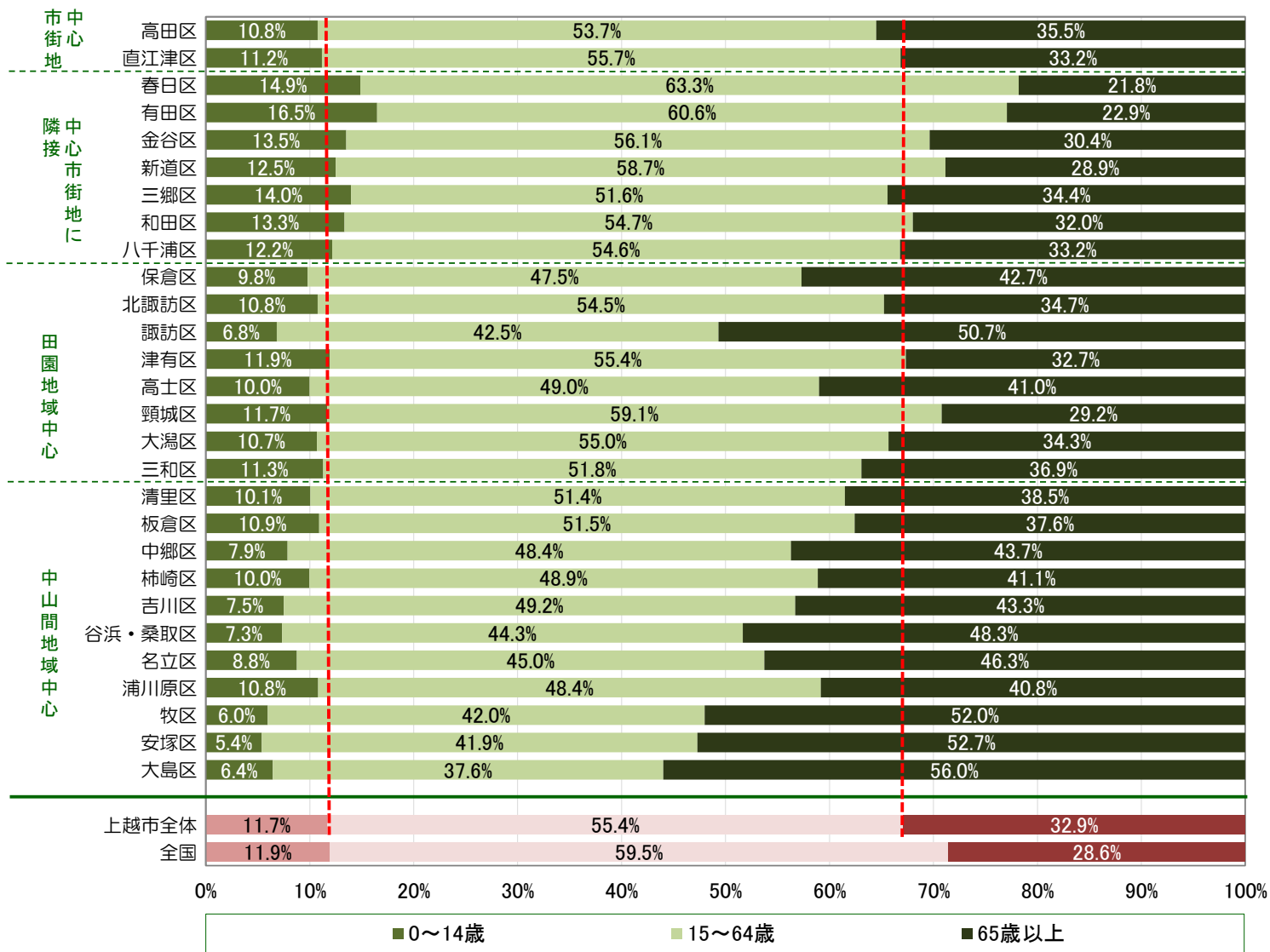


出所) 総務省「国勢調査」
備考) 2015年以降は不詳補完値を使用



過去50年間で上越市の人口は14%減
この間、子どもの数は6割近く減少、高齢者の数は4倍近く増加

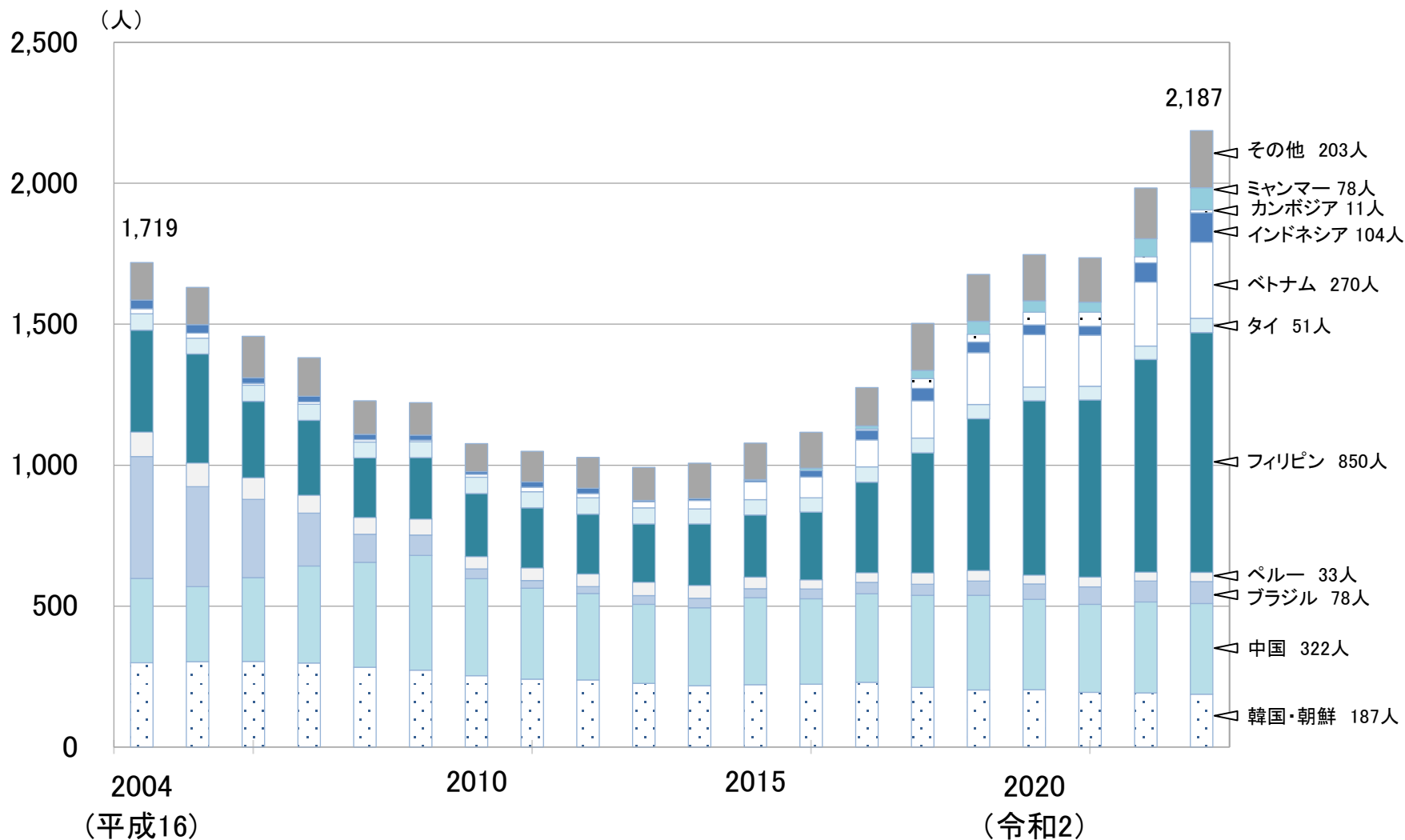
上越市内地区別の年齢構成 (2020)



出所) 総務省「国勢調査」
備考) 全国と上越市全体は不詳補完値を使用

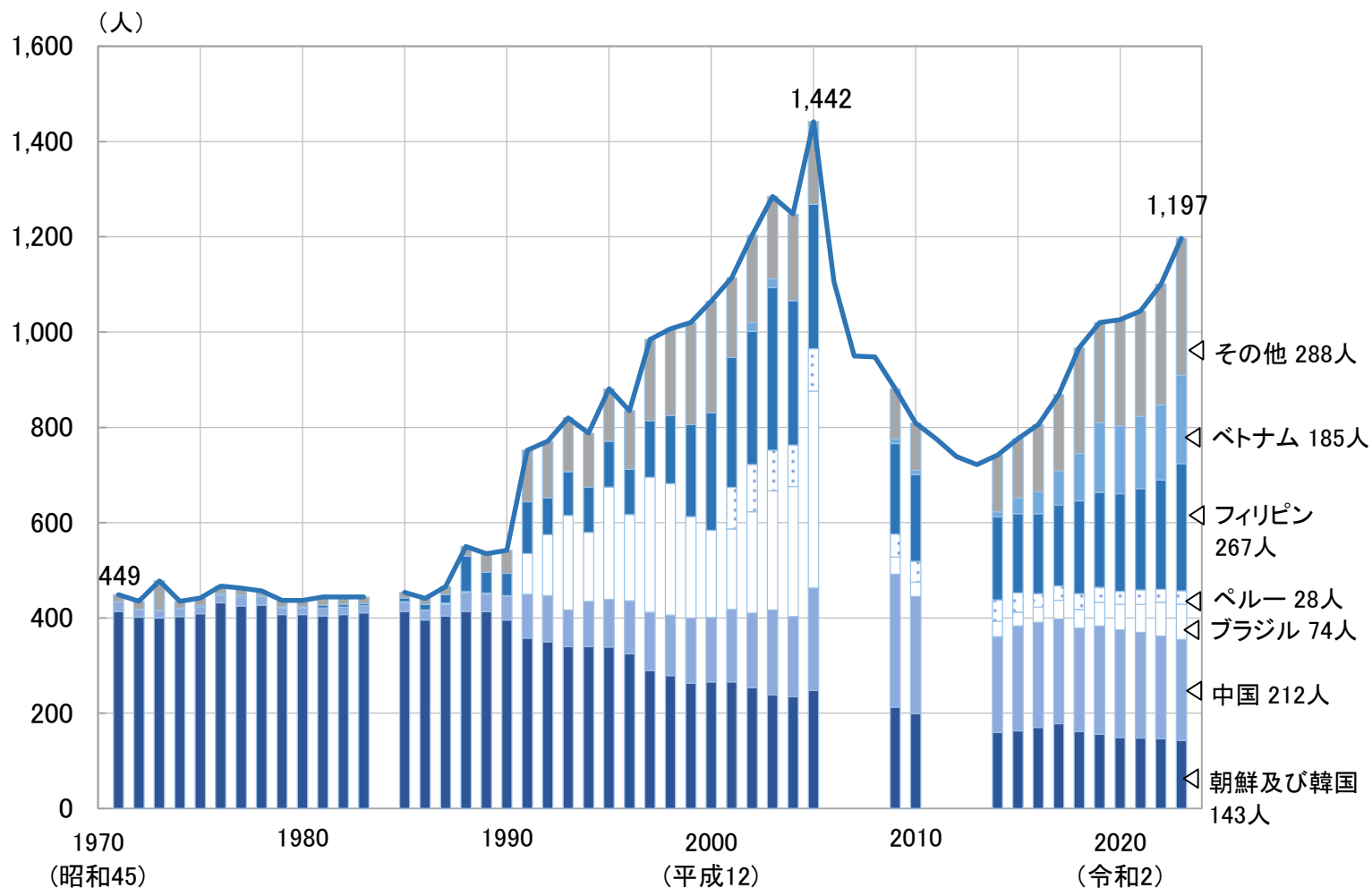
➡ 年齢構成は、地区によって大きく異なる（人口増減との関係性が深い）

上越市の外国人人口の推移（2004～2023）



👉 2004年をピークに一旦減少するも、2013年以降再び増加傾向
出身国の割合は時代とともに変化

合併前上越市の外国人人口の推移 (1971~2023)



出所) 法務省「在留外国人統計」、新潟県統計年鑑、上越市住民基本台帳(各年12月末)
備考) 1984年は内訳・総数のデータなし、2006~2008, 2011~2013年は内訳のデータなし

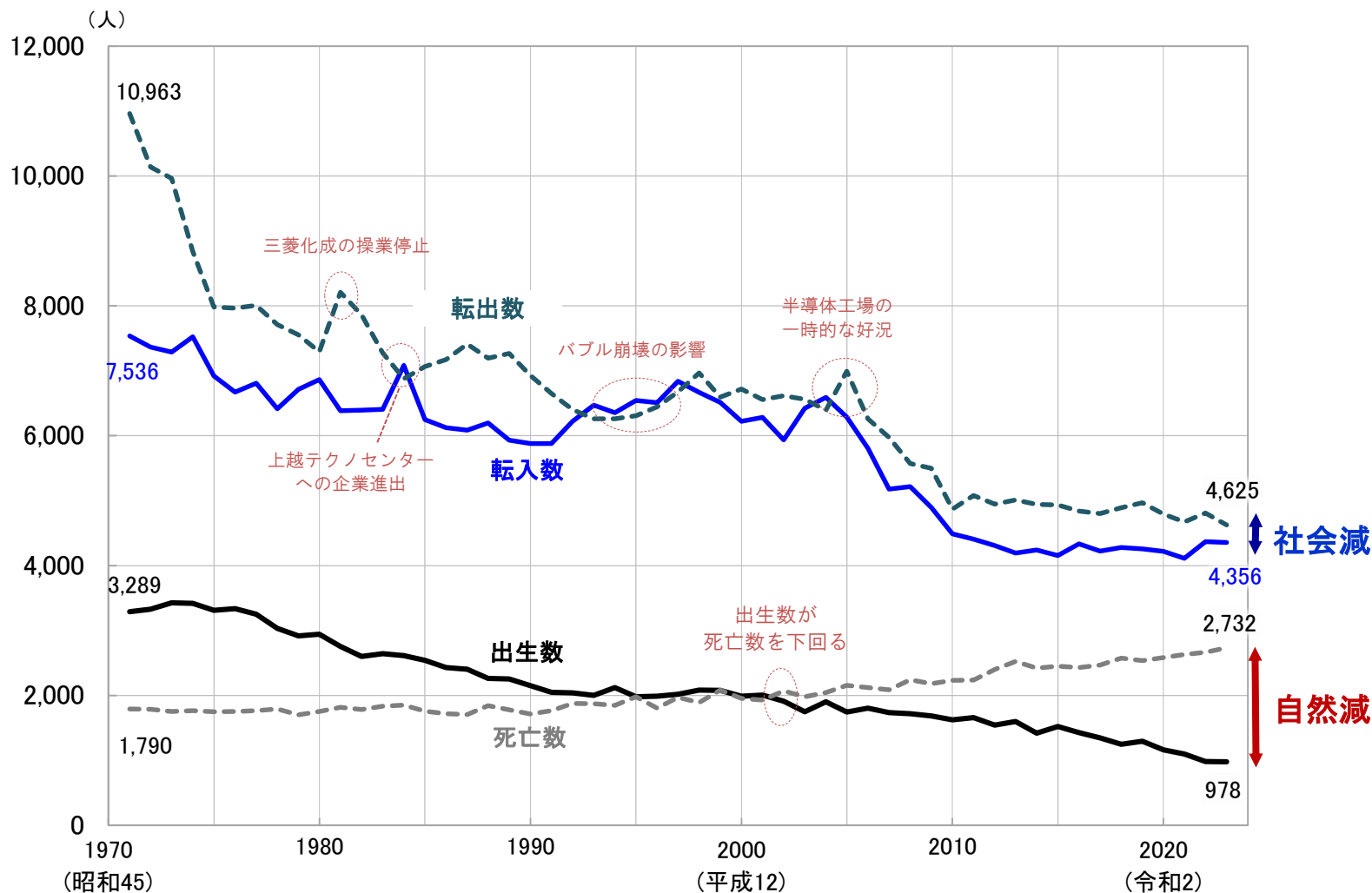
👉 1980年後半から2004年にかけて増加、一旦減少するも2014年以降は再び増加傾向。出身国の割合は時代とともに変化



2 人口動態(出生・死亡・転入・転出)の概要



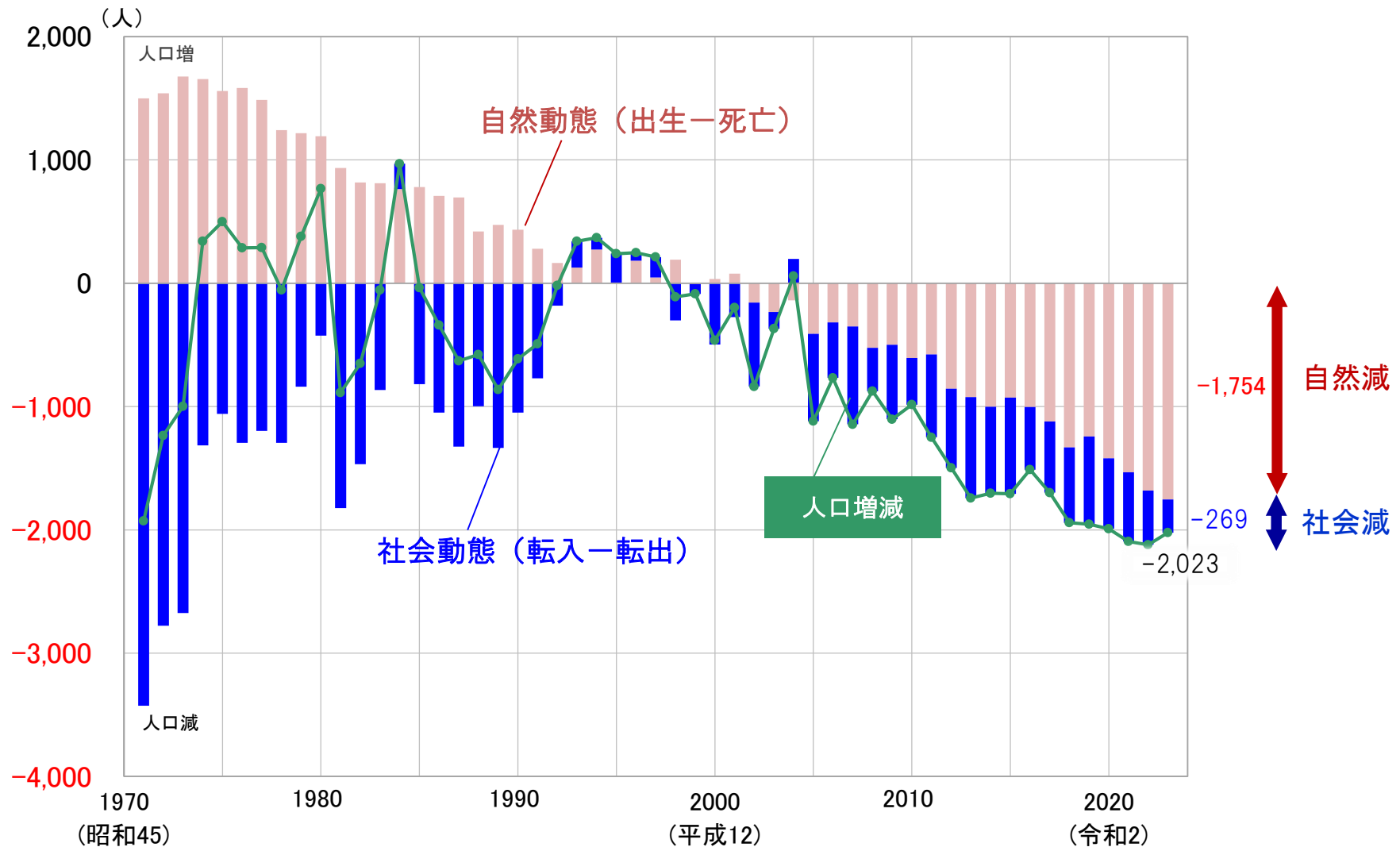
上越市の人口動態の推移 (1971~2023)



出所) 新潟県「人口移動調査結果報告」

出生数は、約50年間で7割減少
2002年から自然減が継続し、出生と死亡の差は拡大傾向にあり
転入数は概ね転出数を下回る(一時的な経済状況の変化による例外もあり)

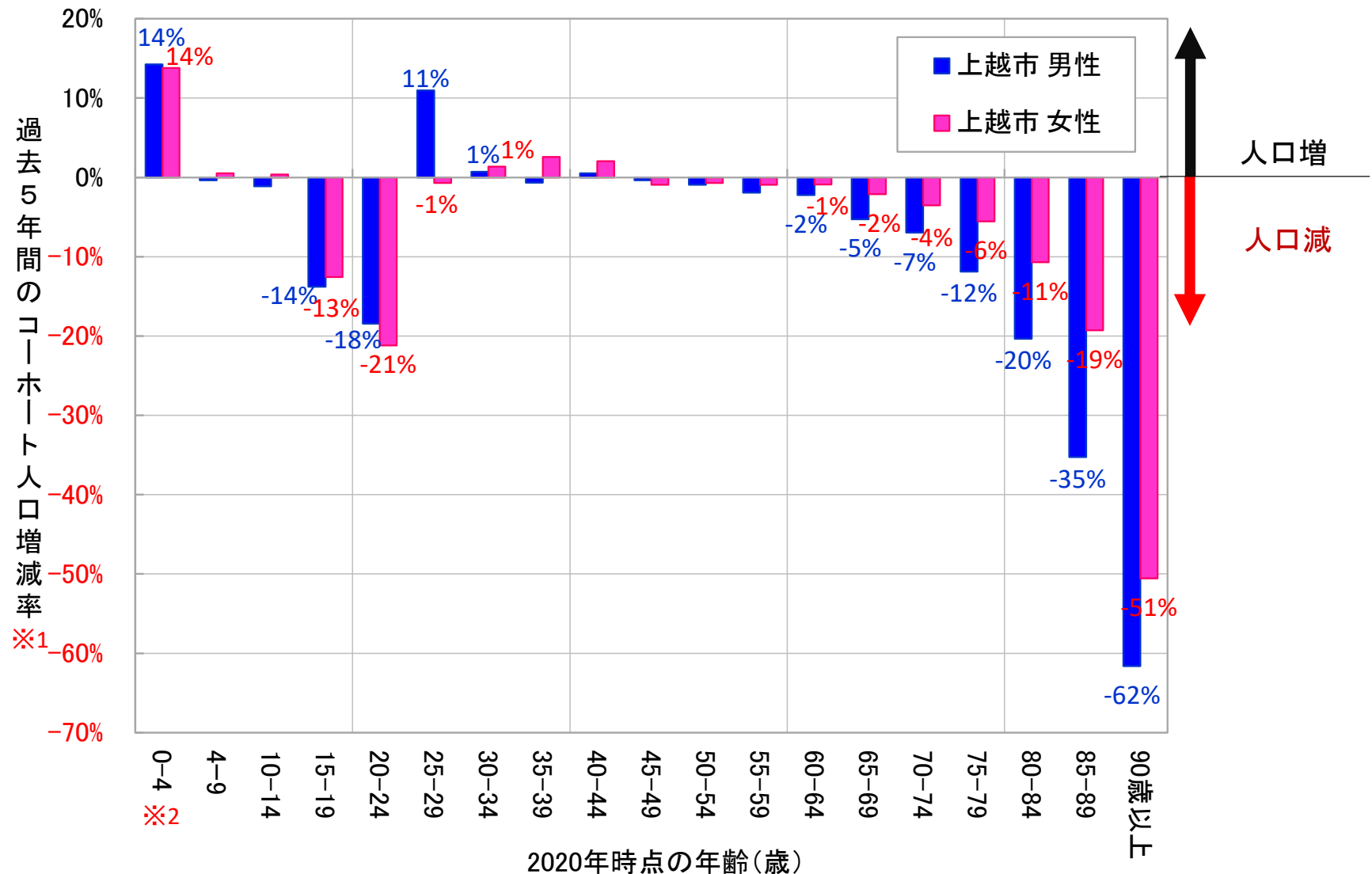
上越市の自然動態と社会動態の推移 (1971~2023)



出所) 新潟県「人口移動調査結果報告」

👉 自然動態(出生と死亡)、社会動態(転入と転出)のマイナスは
過去20年間で一部を除いて拡大傾向

上越市の年齢別・男女別人口増減（2015→2020）



※1 5年前の5歳若い世代(すなわち同じ生まれ年のグループ)の人口と比較したもの

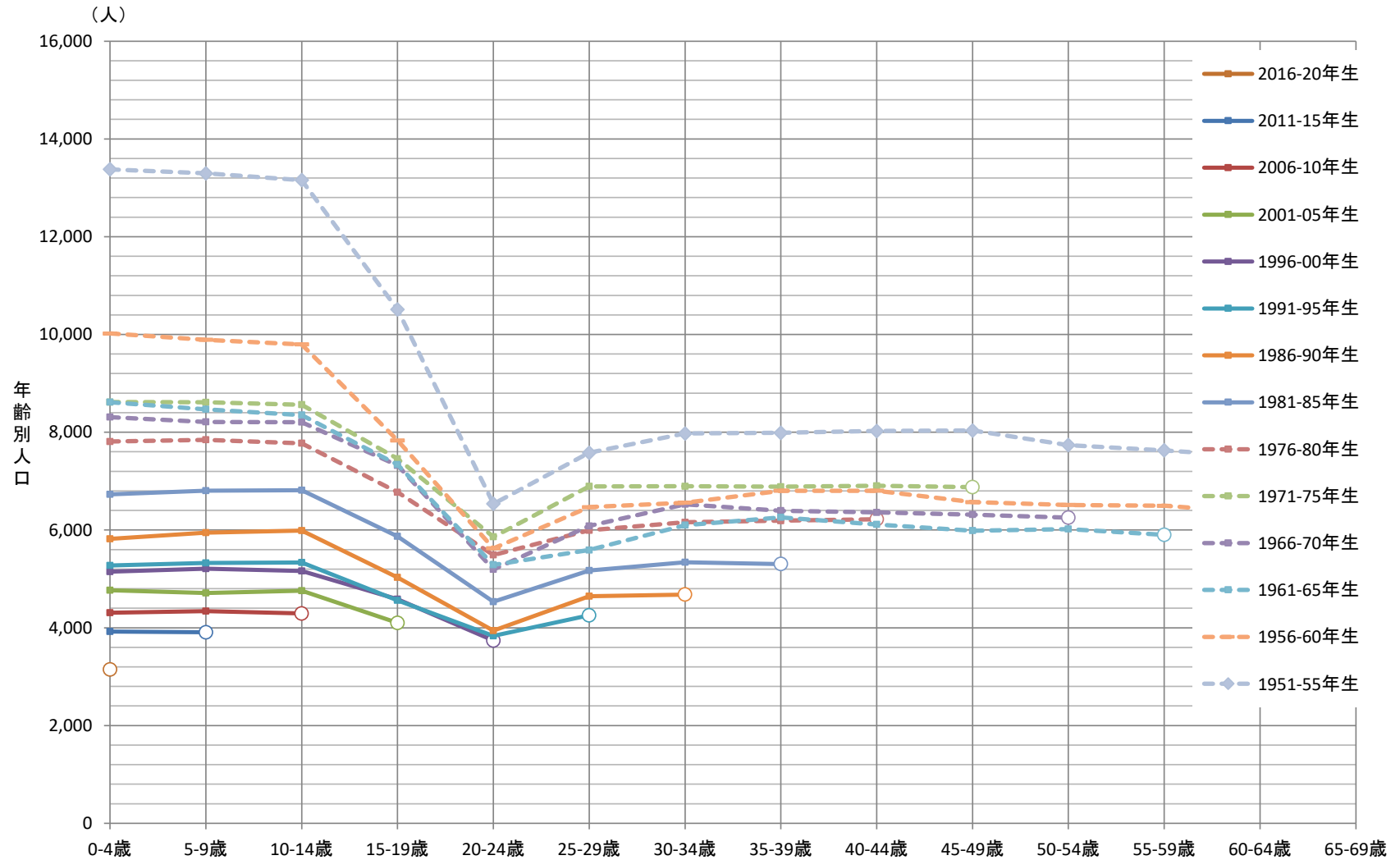
※2 0-4歳の値は、20-44歳女性人口に占める5歳未満人口の割合

出所) 総務省「国勢調査」

備考) 不詳補完値を使用

男女間で傾向が大きく異なるのは、20代後半と65歳以降

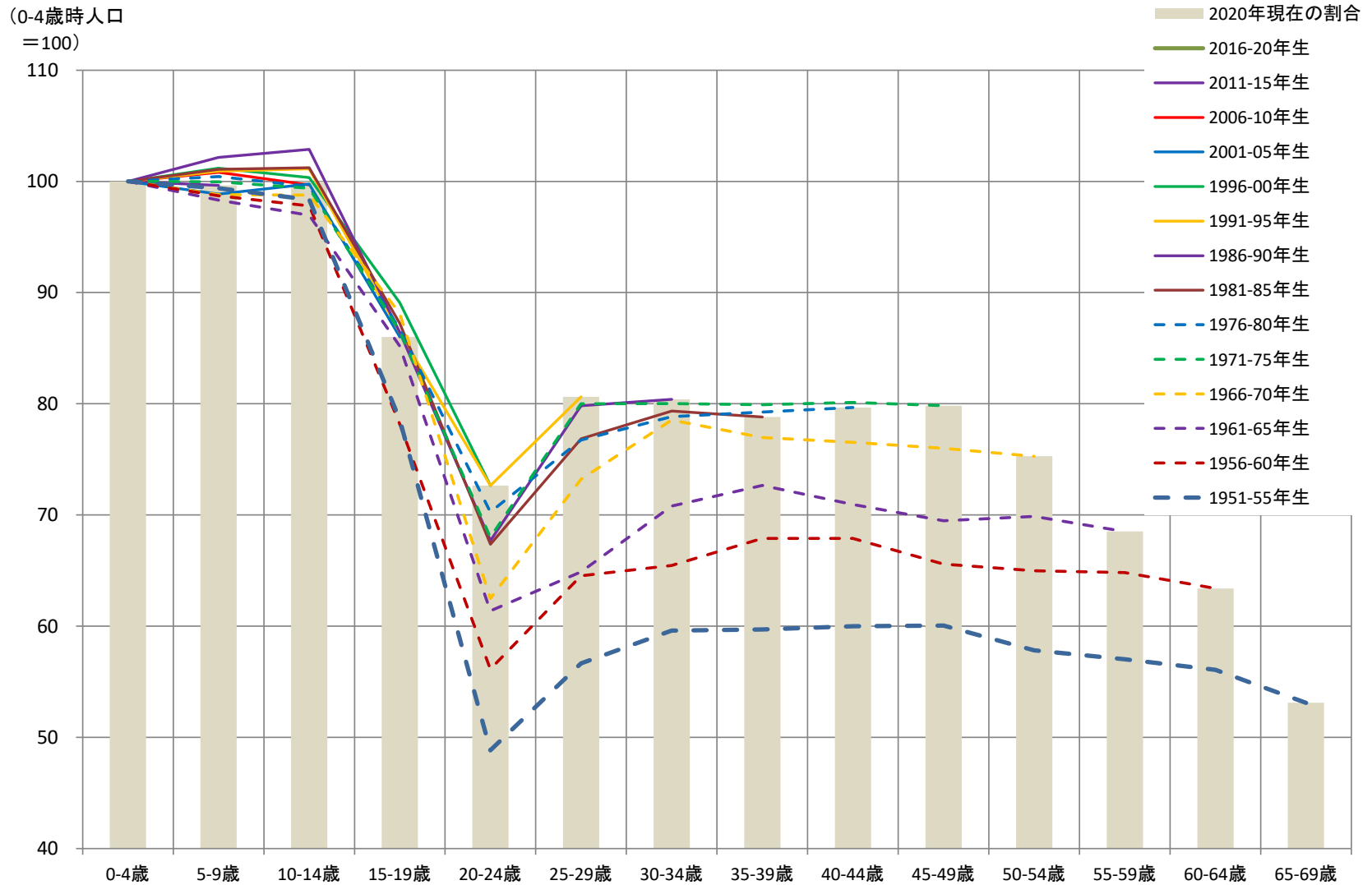
上越市の世代別に見た人口の回復状況（男性1951～2020）



出所) 総務省「国勢調査」
備考) 2015年以降は不詳補完値を使用

👉 出生時の人口は100%まで回復せず。出生数も大きく減少

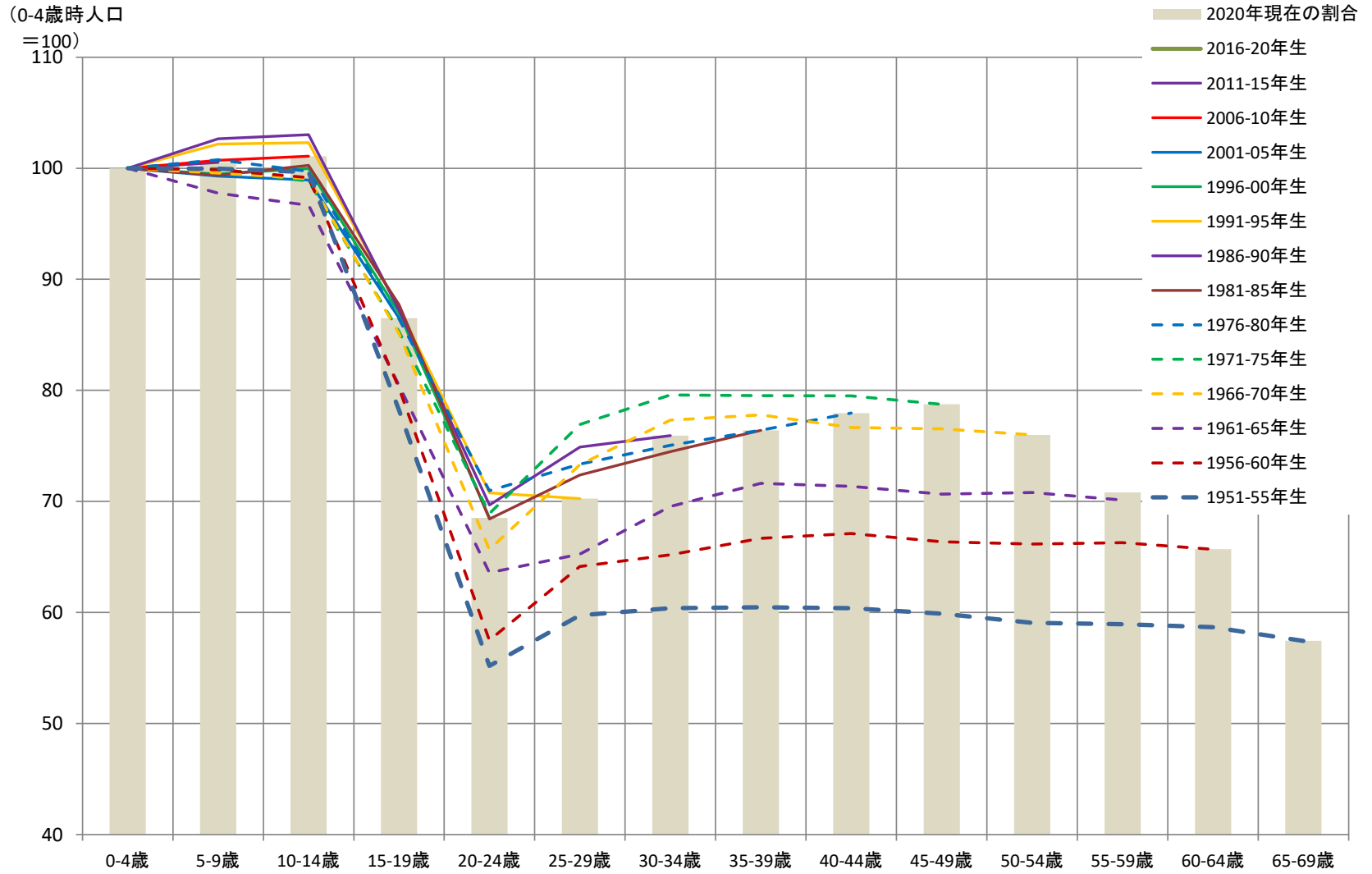
上越市の世代別に見た人口の回復状況（男性1951～2020）



出所) 総務省「国勢調査」
備考) 2015年以降は不詳補完値を使用

👉 近年は20代前半で7割程度まで減少、30～40代で8割程度まで回復

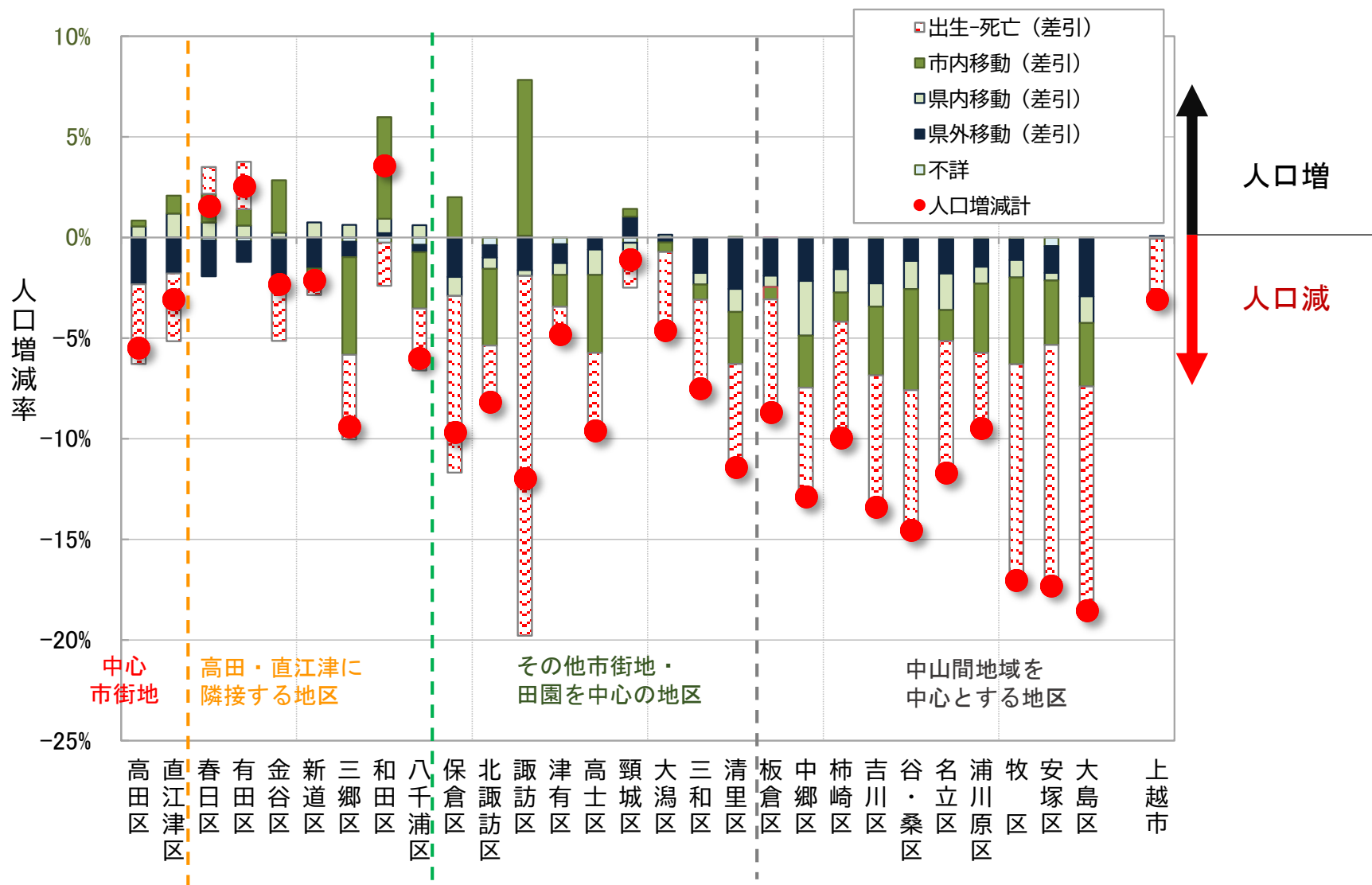
上越市の世代別に見た人口の回復状況（女性1951～2020）



出所) 総務省「国勢調査」
備考) 2015年以降は不詳補完値を使用

👉 近年は 20代前半で7割まで減少、その後3/4程度まで回復
(最近10年間は、男性よりもやや低水準で推移)

上越市内地区別の人口動態（2015～2020）



出所）上越市住民基本台帳をもとに独自集計

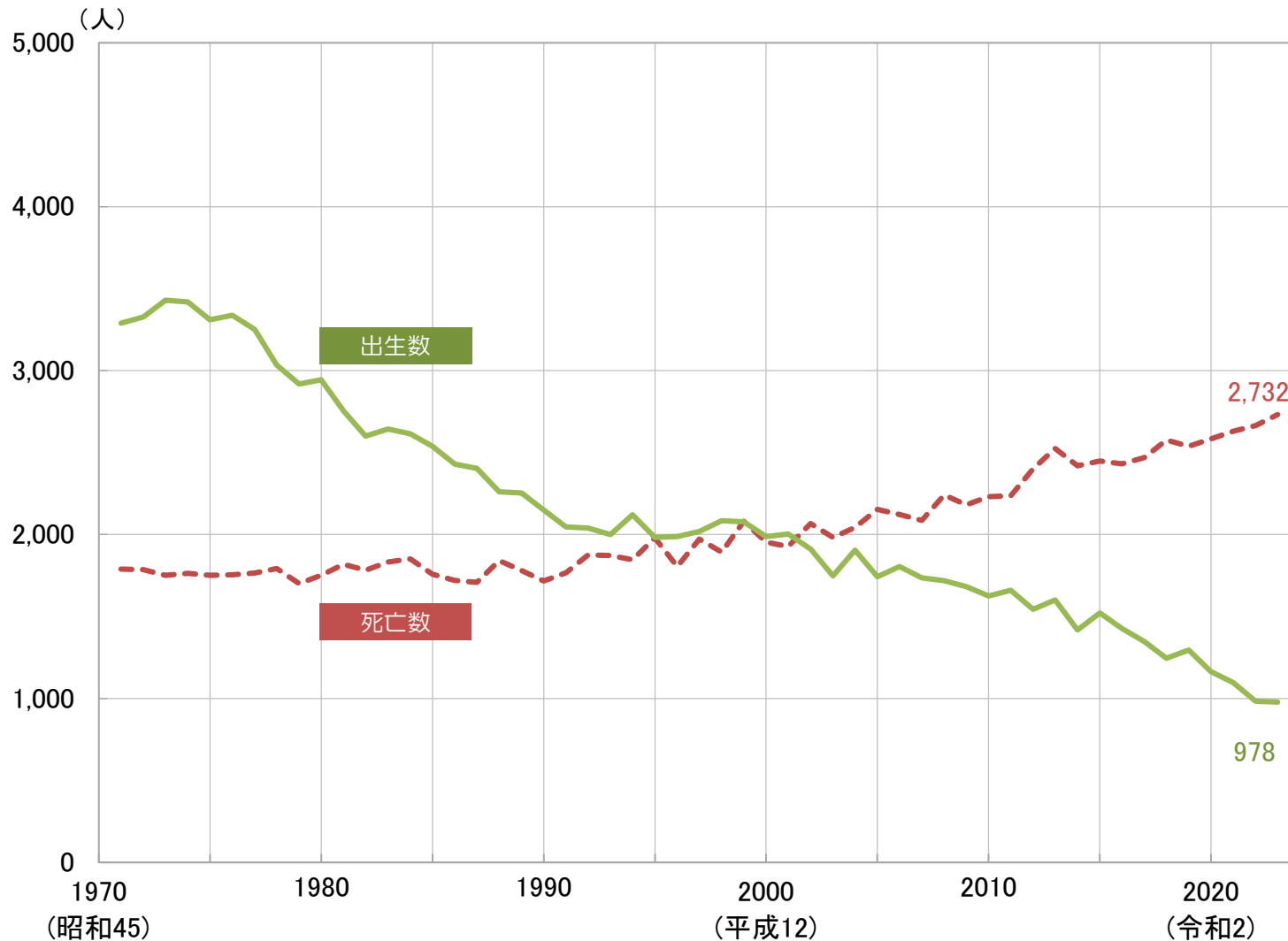
ほとんどの区で、自然減と県外への転出超過。市内の移動は違いあり



2-1 出生



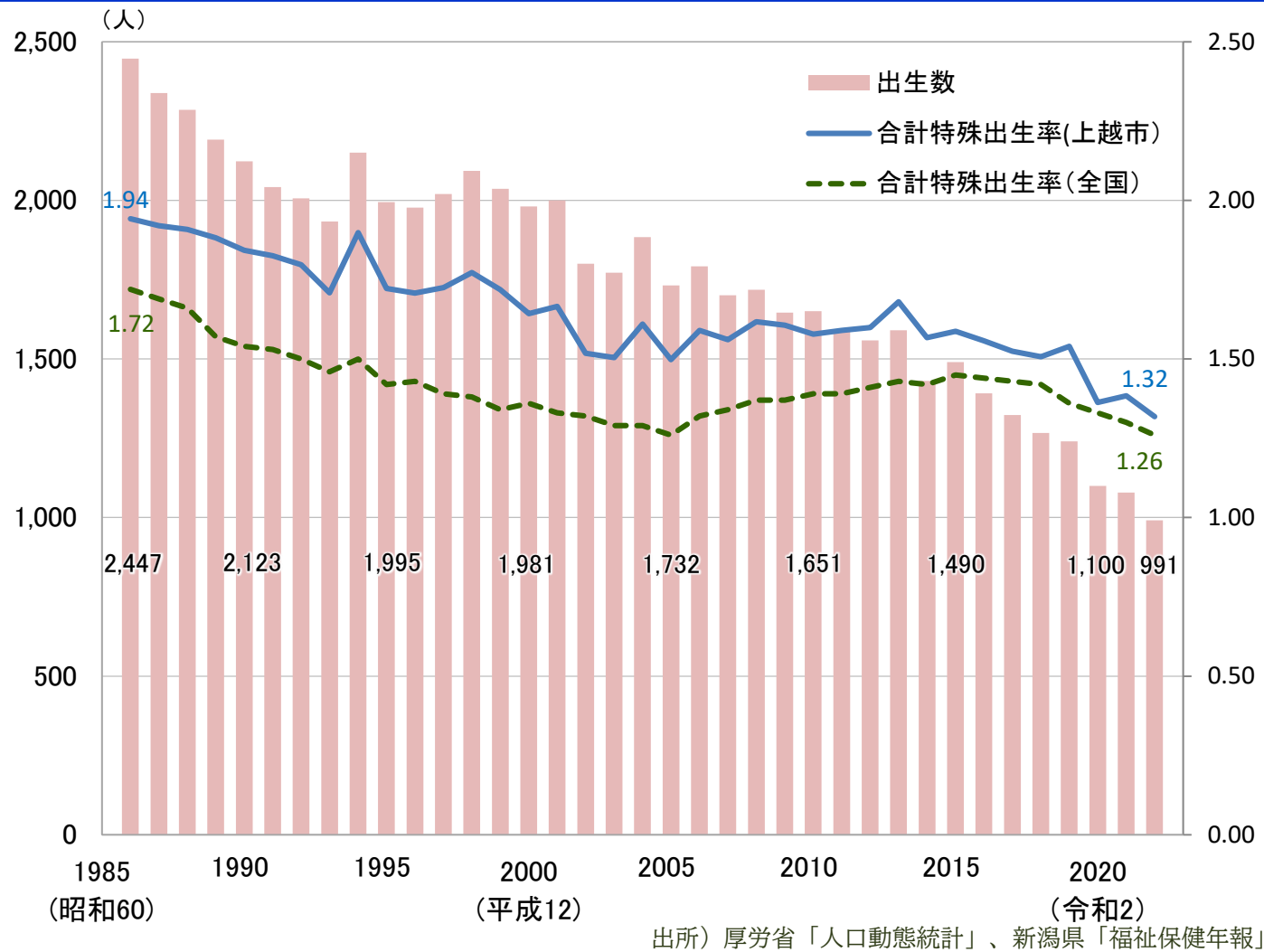
上越市の自然動態の推移 (1971~2023)



出所) 新潟県「人口移動調査結果報告」
備考) 2022年の値は月報の合計値

👉 出生数の減少と死亡数の増加が続き、その差は拡大が続く
減少幅は社会動態に比べて大きい

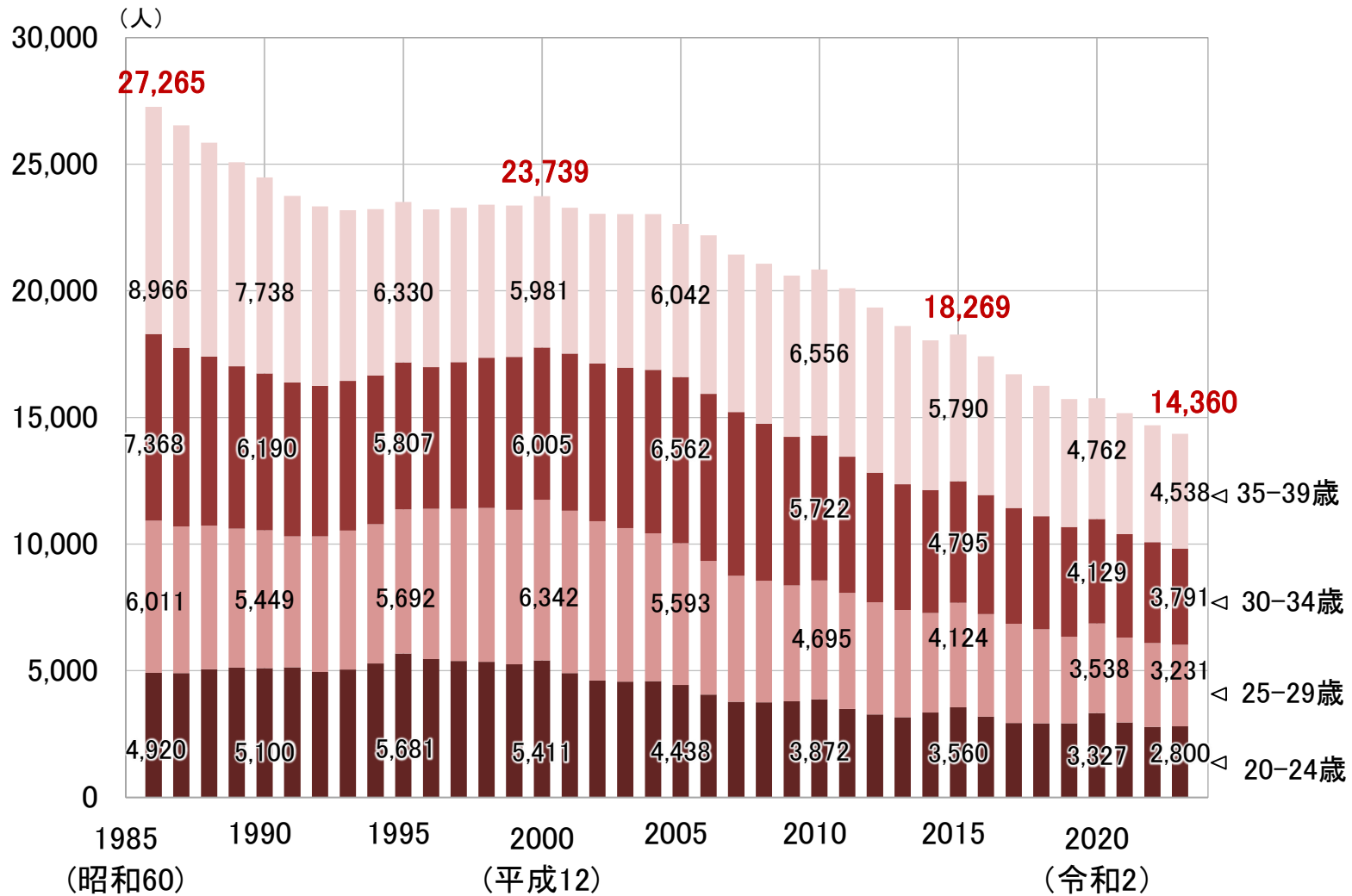
上越市の出生数と合計特殊出生率の推移（1980～2022）



👉 出生率2.07を下回る間は、転入出の差がゼロでも人口減少が続く。
長期的には減少傾向であり、全国平均との差も縮小。

少子化の要因① 女性人口の減少

上越市の20・30代女性人口の推移（1986～2023）

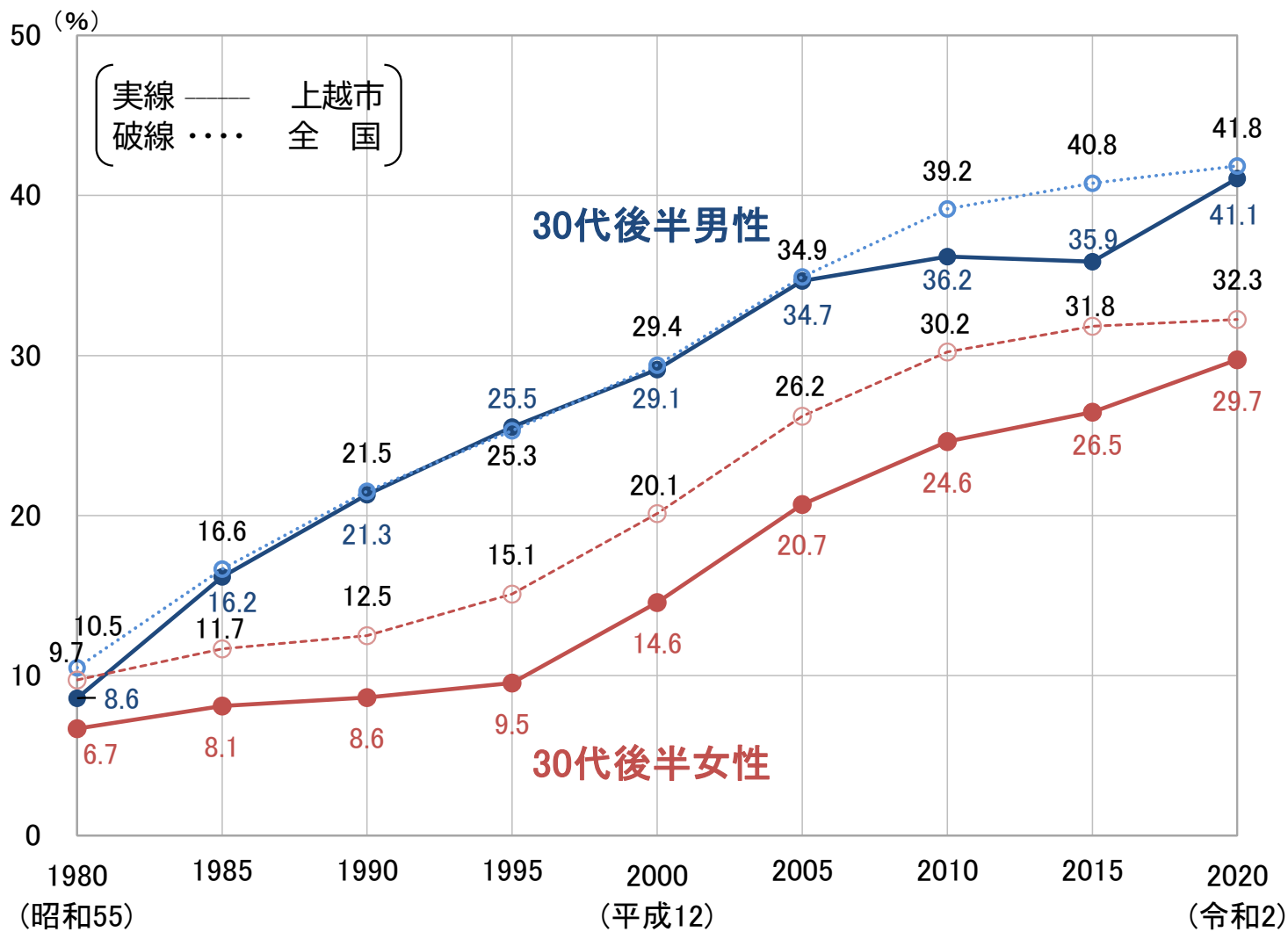


出所）総務省「国勢調査」、新潟県「推計人口」
備考）2020年は不詳補完値を使用

📌 20・30代の女性人口は、過去30年間で1／3以上減少
（要因は、1970年代から続く少子化と転出超過によるもの）
出生数の減少は、この女性人口と出生率の減少によるもの

少子化の要因② 独身割合の増加 (未婚化の進展等)

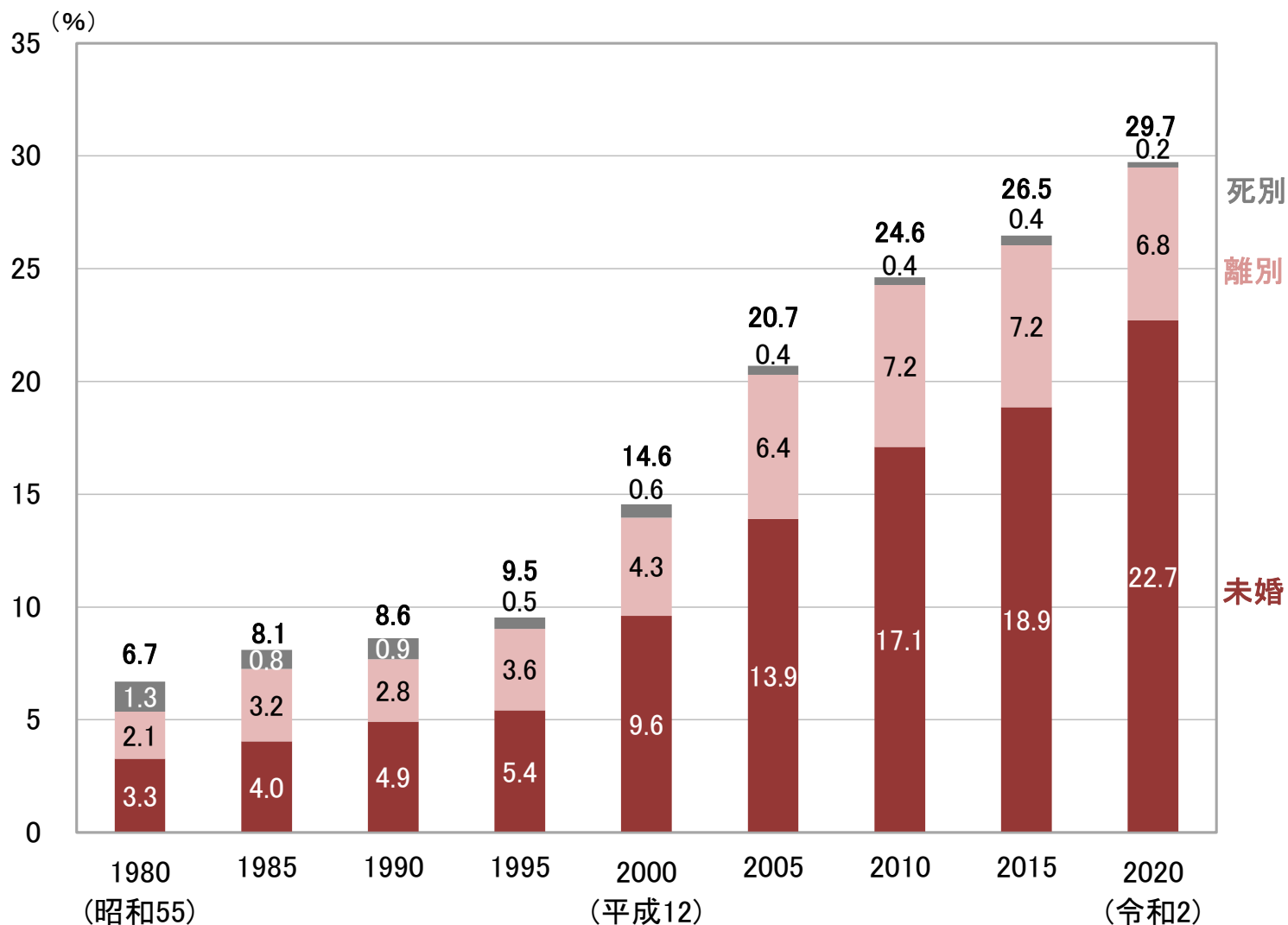
上越市の独身割合の推移 (30代後半：1980~2020)



出所) 総務省「国勢調査」 備考) 2015年以降は不詳補完値を使用

👉 右肩上がりに増加傾向。男性は全国水準とほぼ変わらない。
出生率の低下や独身者の高齢化などに影響

上越市の独身割合の推移 (30代後半・女性：1980～2020)

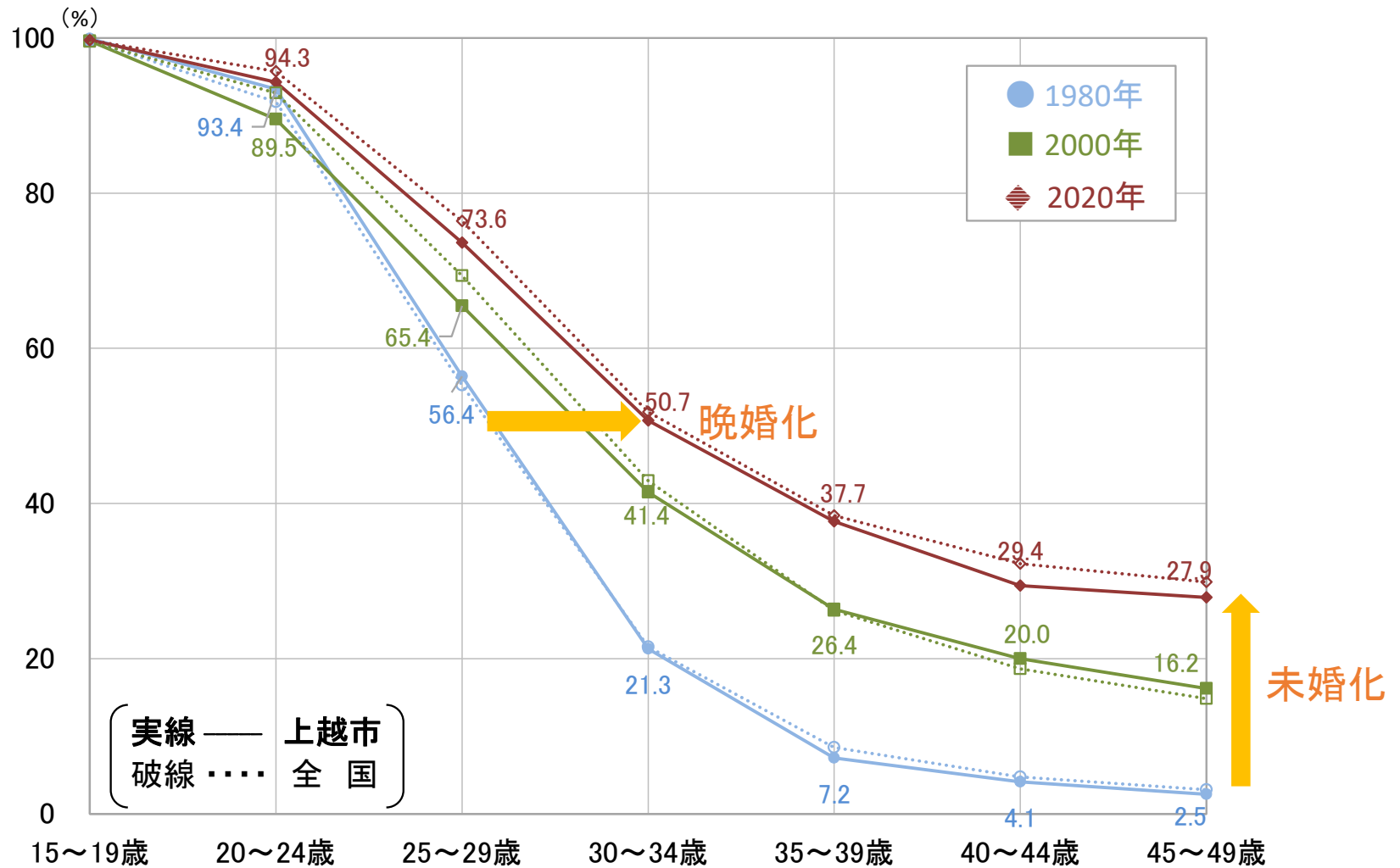


出所) 総務省「国勢調査」 備考) 2015年以降は不詳補完値を使用

👉 独身には未婚のほか、離別・死別を含む。
特に未婚が増加傾向、2020年は3／4を占める。離別は増加から横ばい傾向

少子化の要因③ 晩婚・晩産化の進展

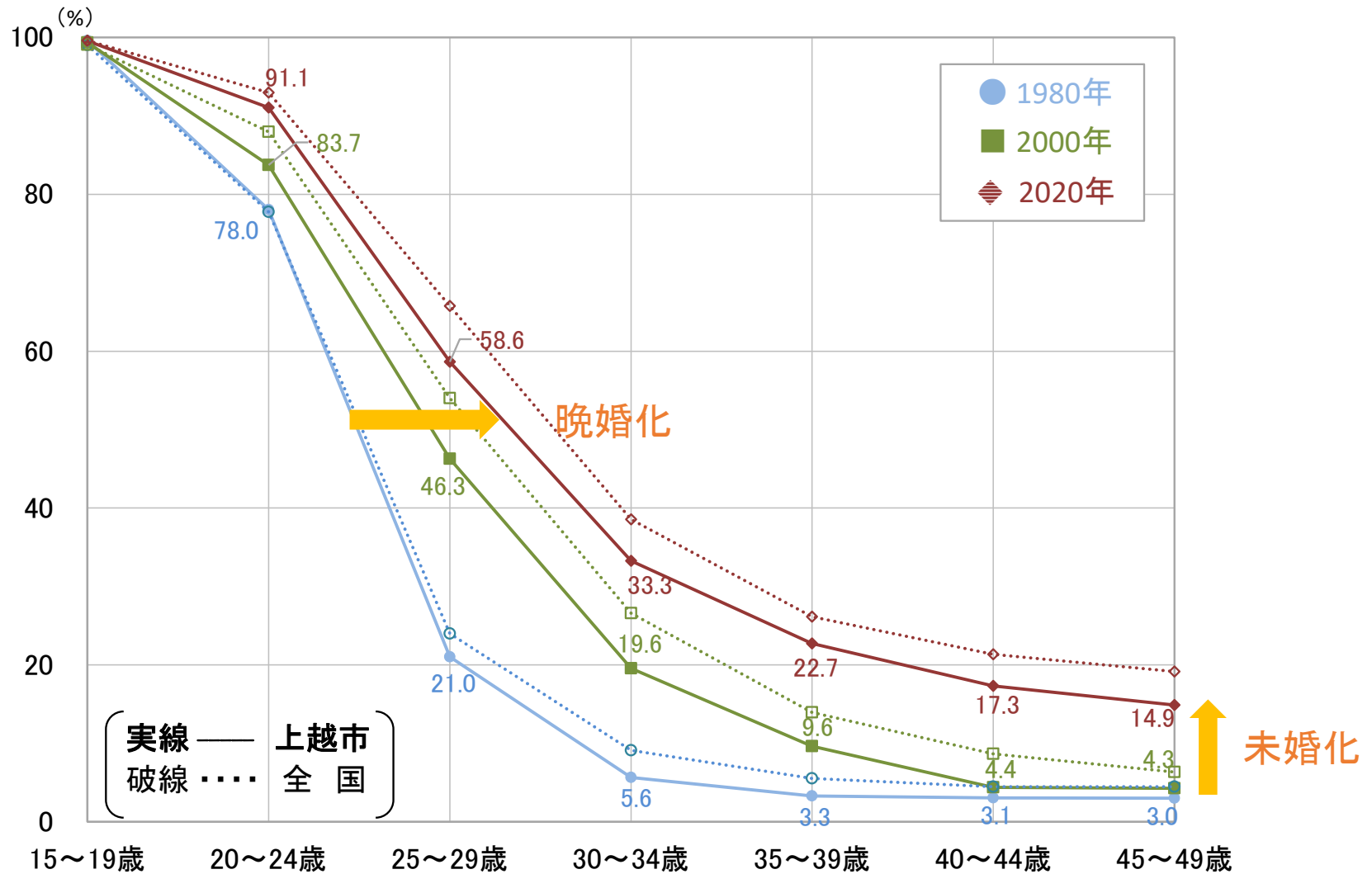
上越市の未婚率の推移（男性：1980～2020）



出所）総務省「国勢調査」、備考）2020年は不詳補完値を使用

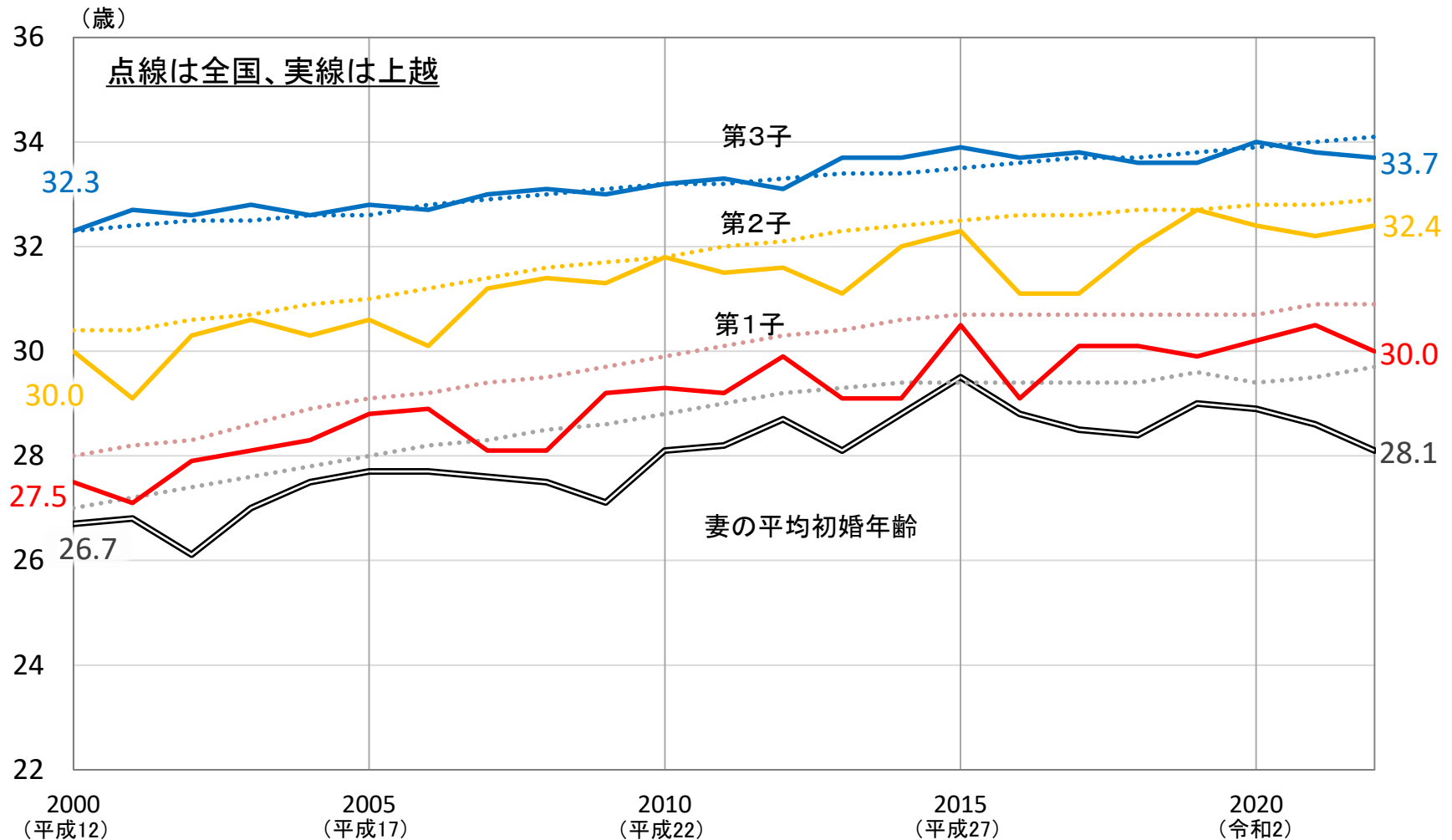
👉 未婚率はすべての年齢層で上昇傾向
全国平均とほぼ同水準

上越市の未婚率の推移（女性：1980～2020）



👉 未婚率はすべての年齢層で上昇傾向
全国平均に比べるとやや低水準

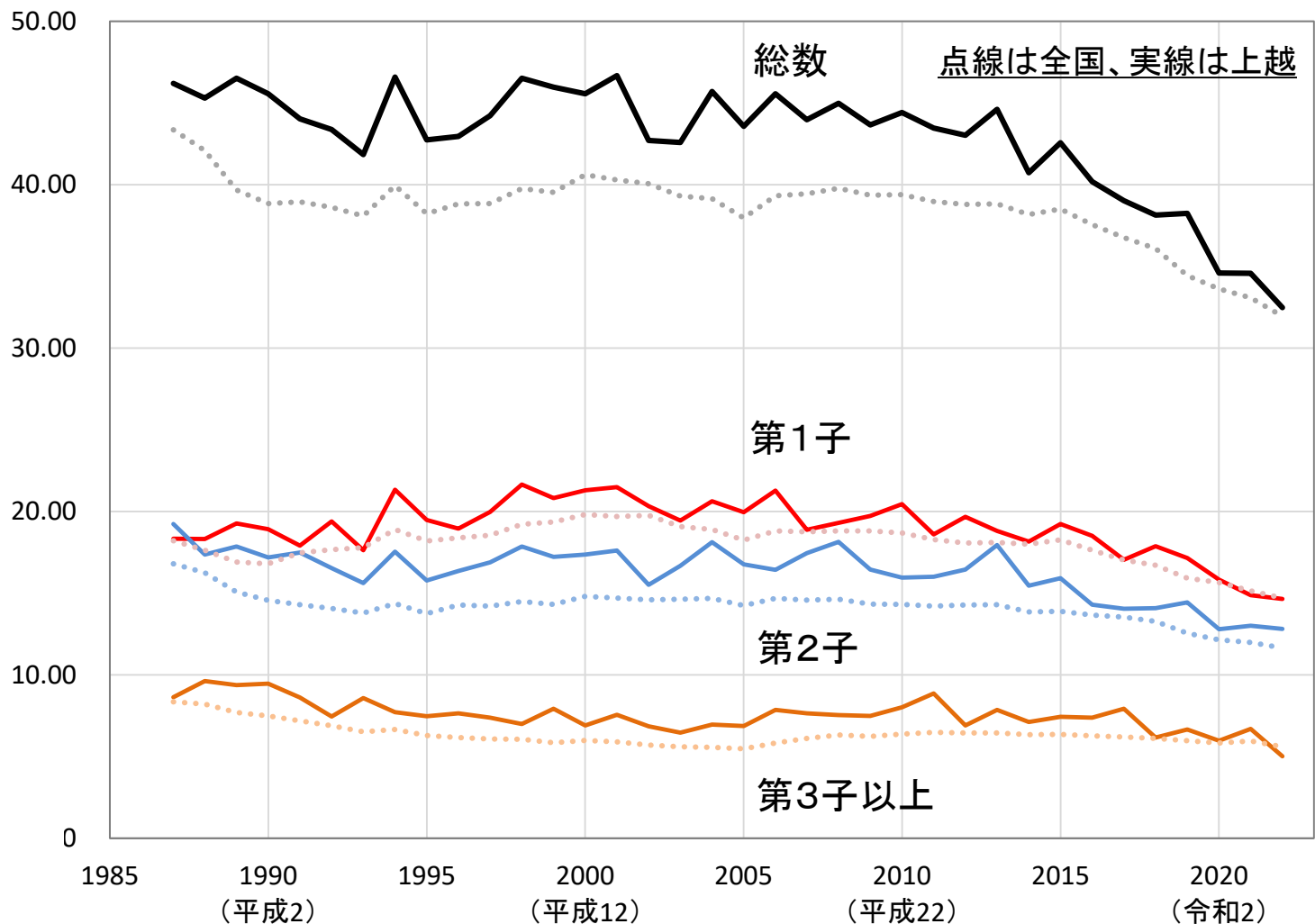
上越市の初婚・出生時の平均年齢の推移（2000～2022）



出所) 厚労省「人口動態調査出生票」情報をもとに独自に集計
備考) 非嫡出子、母の年齢不詳は含まない。

☞ 結婚・出産時の女性年齢は緩やかに上昇傾向(晩婚化と晩産化が進行)
全国平均に比べて、若干ではあるが初婚・第1子出産のタイミングが早い

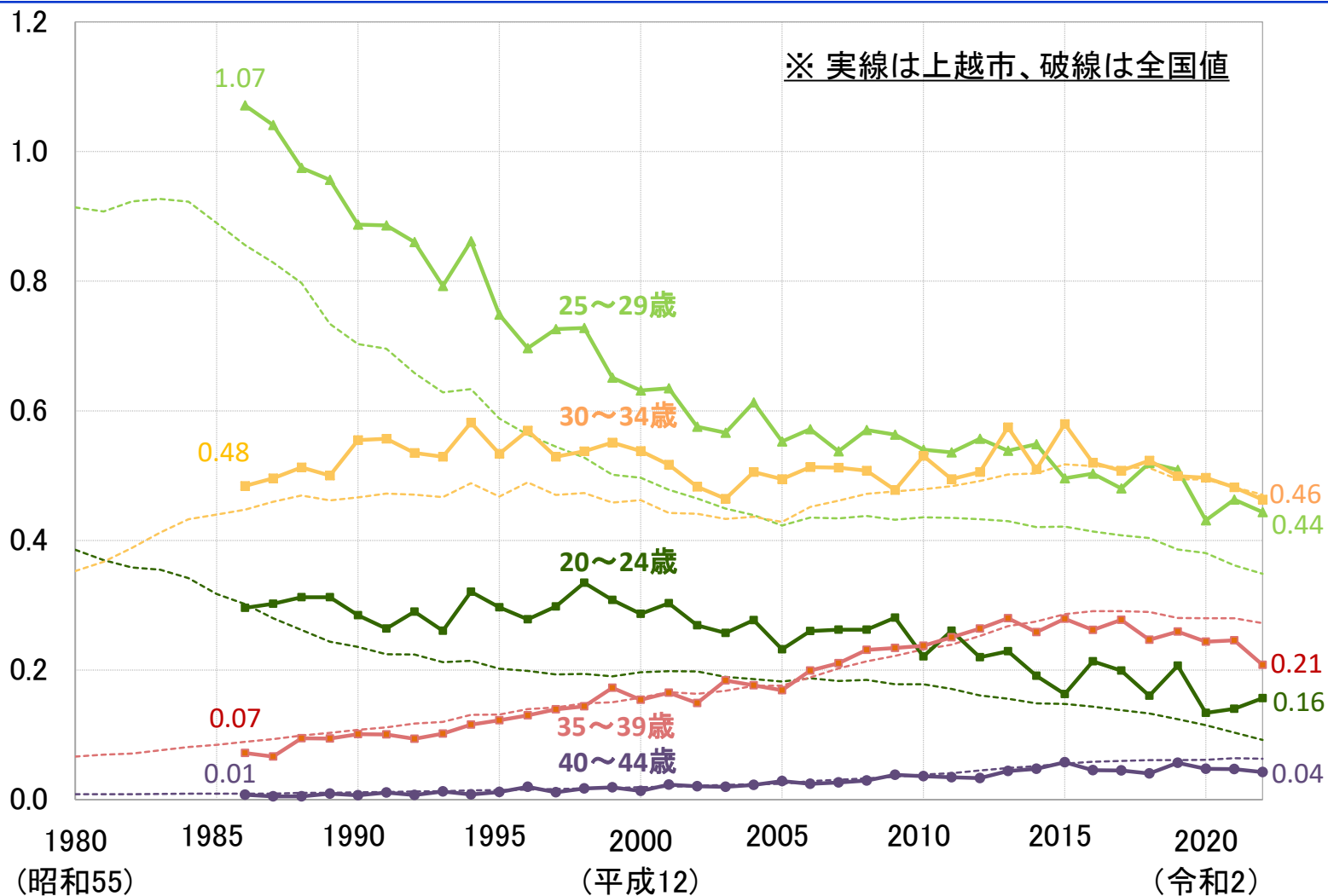
上越市の出生率の推移 (出生順位別：1990～2022)



出所) 厚労省「人口動態統計」、新潟県「福祉保健年報」
備考) 15-49歳女性人口千対

📌 2022年の構成比は、第1子が45%、第2子が39%、第3子以上が15%
近年は、第1子・第2子・第3子以上のいずれも微減傾向

上越市の出生率の推移 (母親の年齢別：1986～2022)



出所) 厚労省「人口動態調査」、新潟県「福祉保健年報」、総務省「国勢調査」

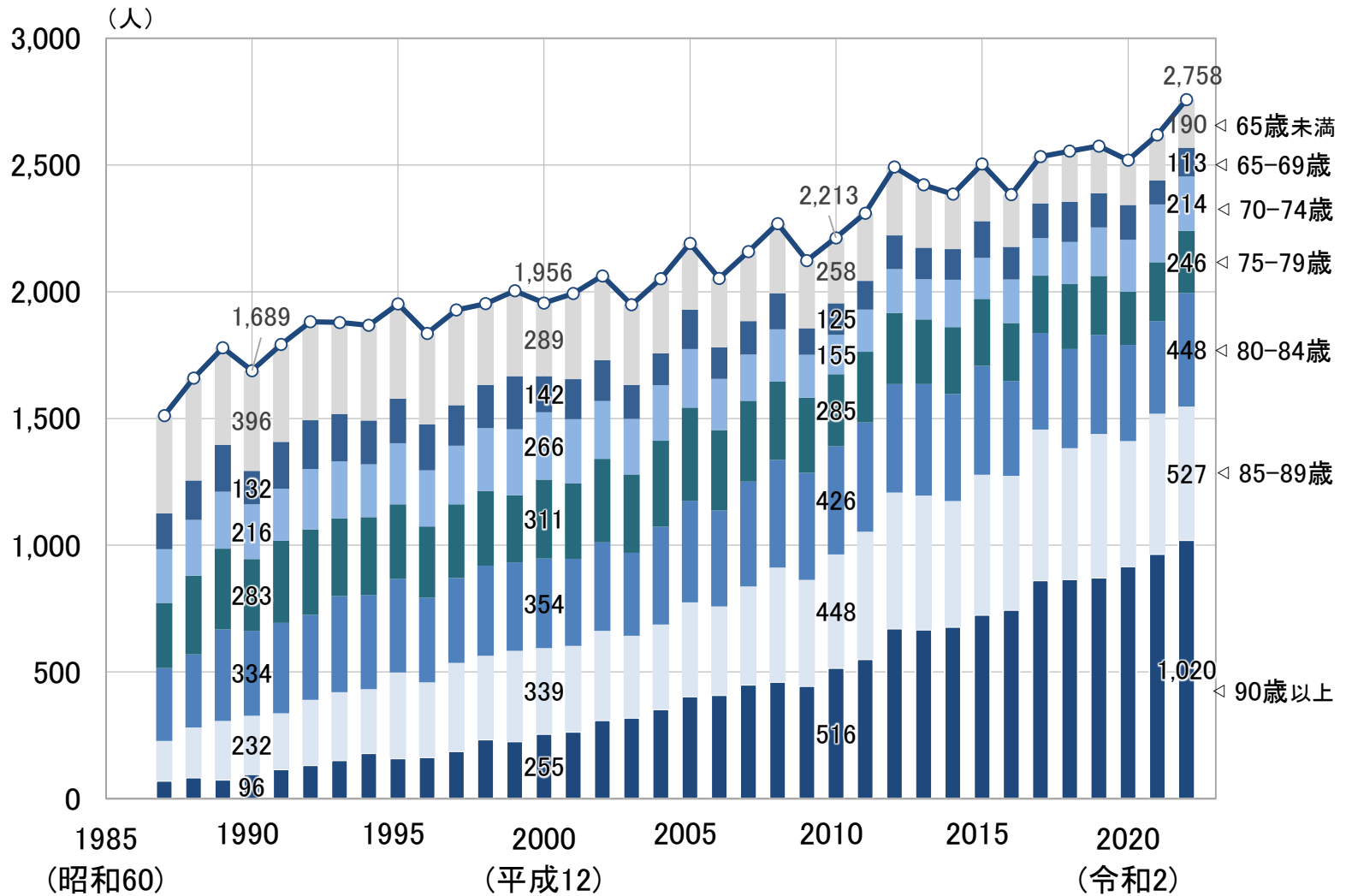
👉 20代後半の出生率は、30年間でほぼ半減(全体の出生率に影響)
いずれの世代も近年は微減傾向



2-2 死亡



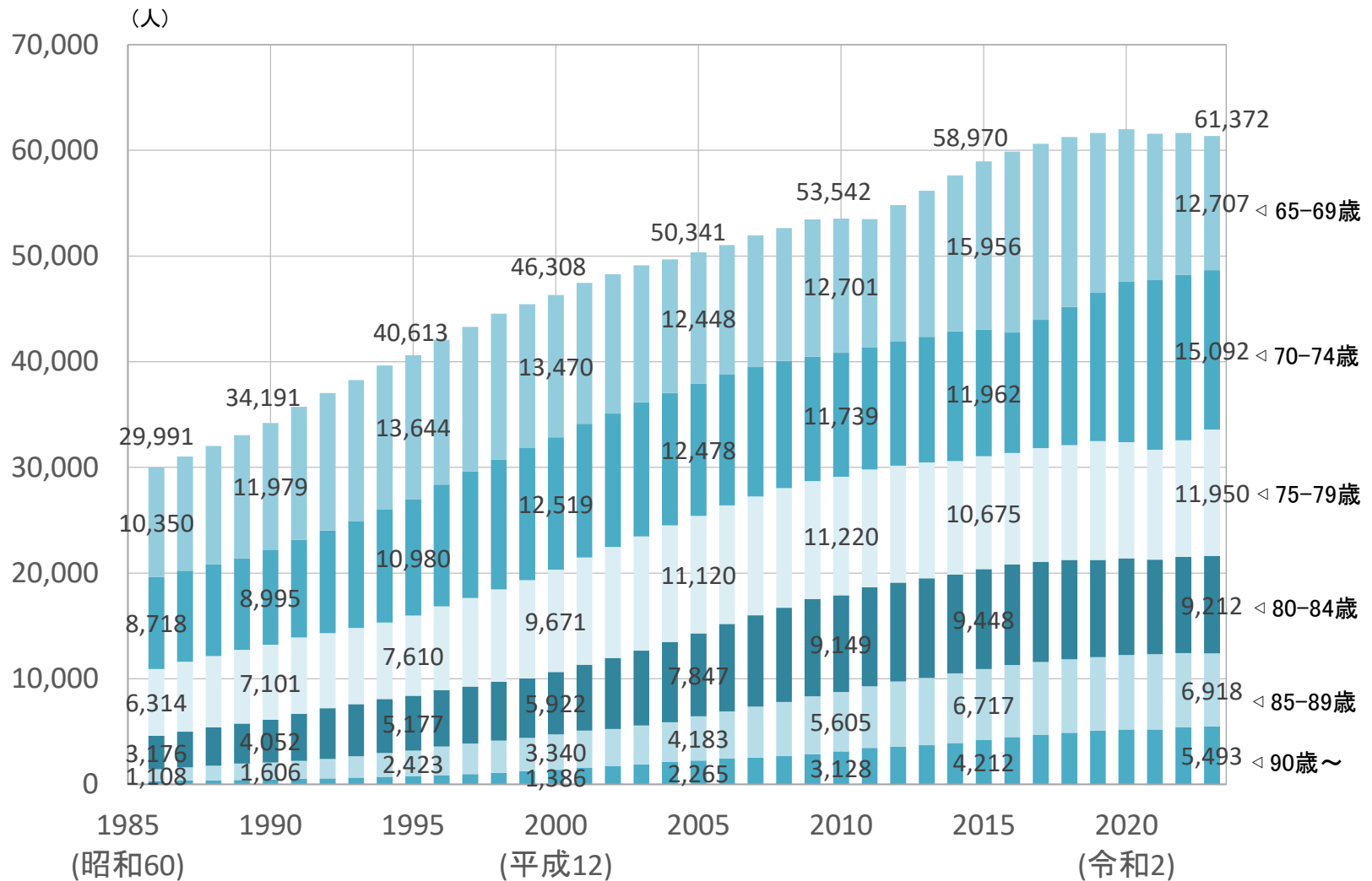
上越市の年齢別死亡数の推移（1987～2022）



出所) 新潟県「福祉保健年報」

👉 死亡数は、過去30年間で4割増

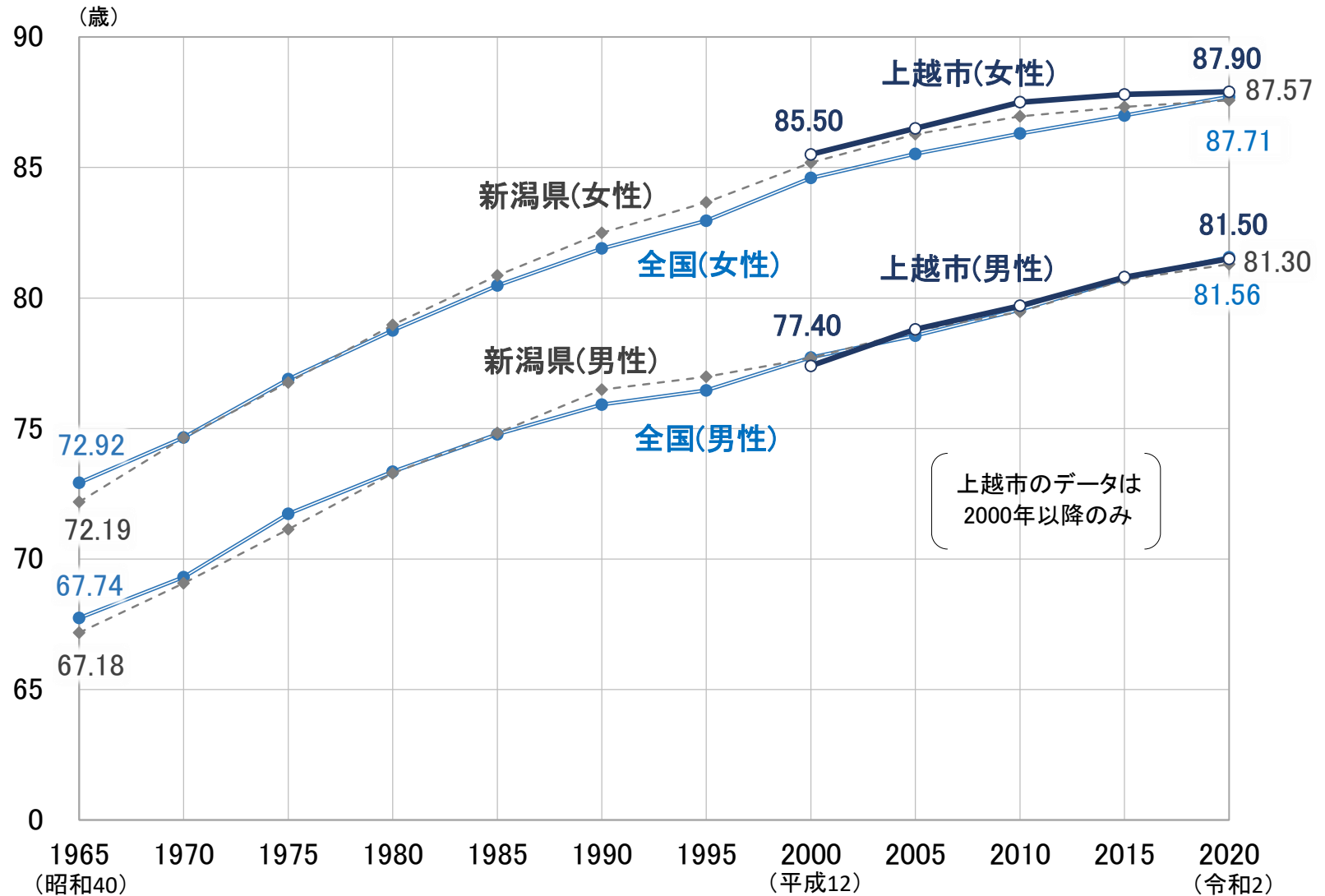
上越市の高齢者人口の推移（1986～2023）



出所) 新潟県「人口移動調査結果報告」

☞ 団塊の世代の高齢化に加え、平均寿命の延伸により
特に80歳以上の割合が増加

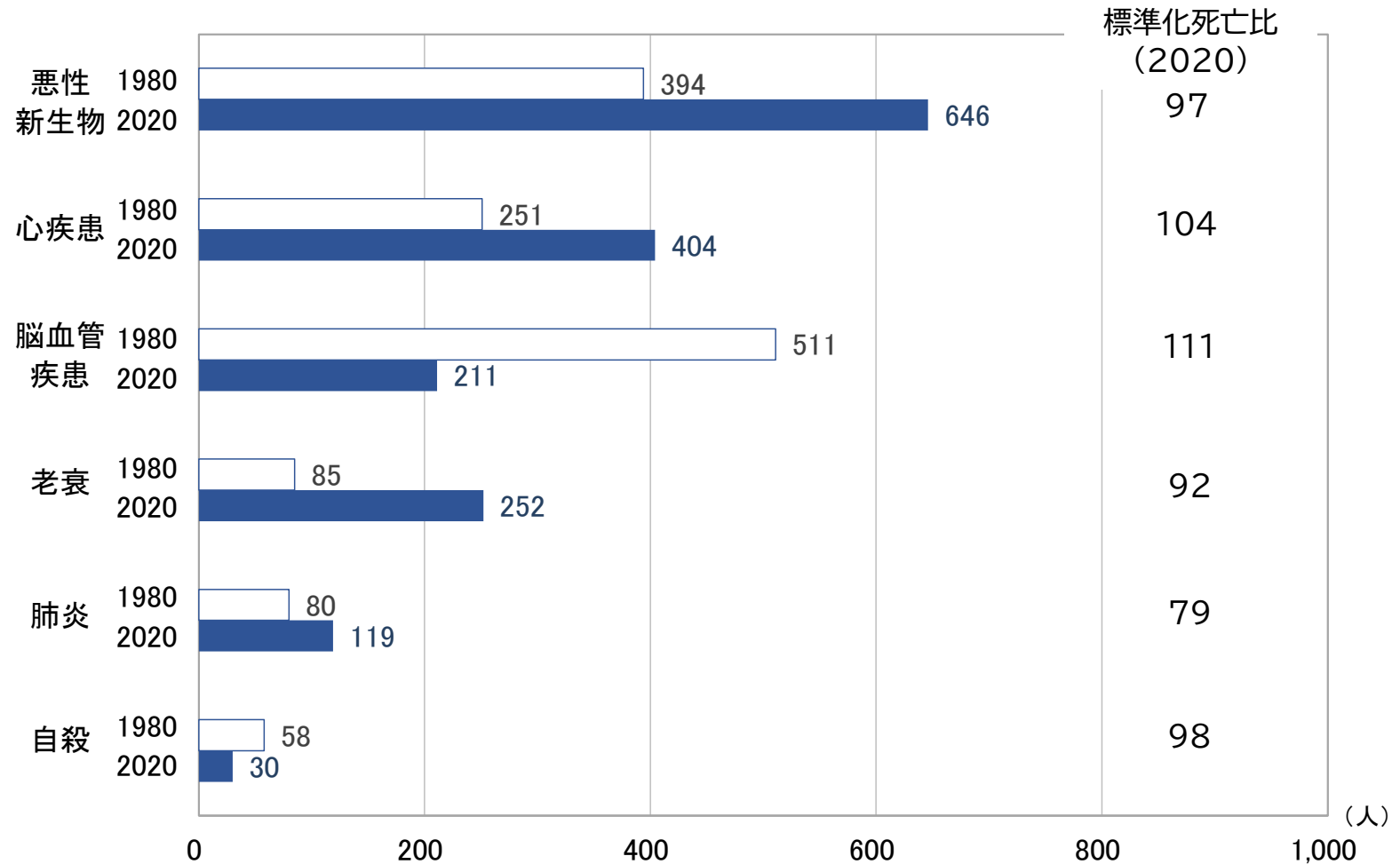
上越市の平均寿命の推移 (1965~2020)



出所) 厚労省「都道府県別生命表」、「市町村別生命表」

☞ 男女ともに上昇傾向。新潟県平均では30年前に比べて6~7歳増加
男性に比べて女性の方が6.4歳高い

上越市の死因別死亡数（1980・2020）



出所) 新潟県「福祉保健年報」

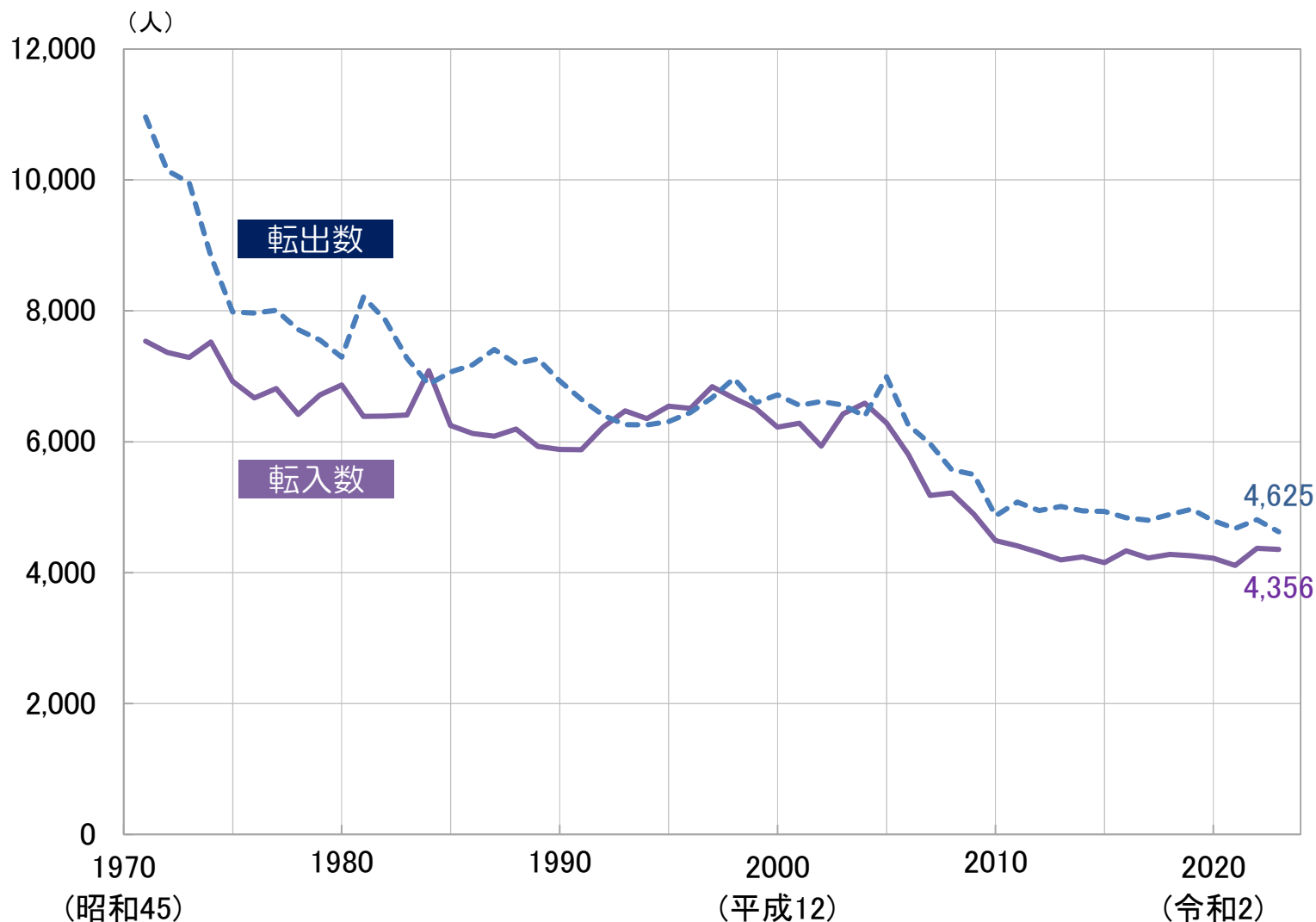
👉 40年前に比べて、
 がんによる死亡数は大幅に増加したが、全国平均と同水準
 脳血管疾患による死亡数は半減したが、全国平均に比べれば高水準



2-3 転入・転出



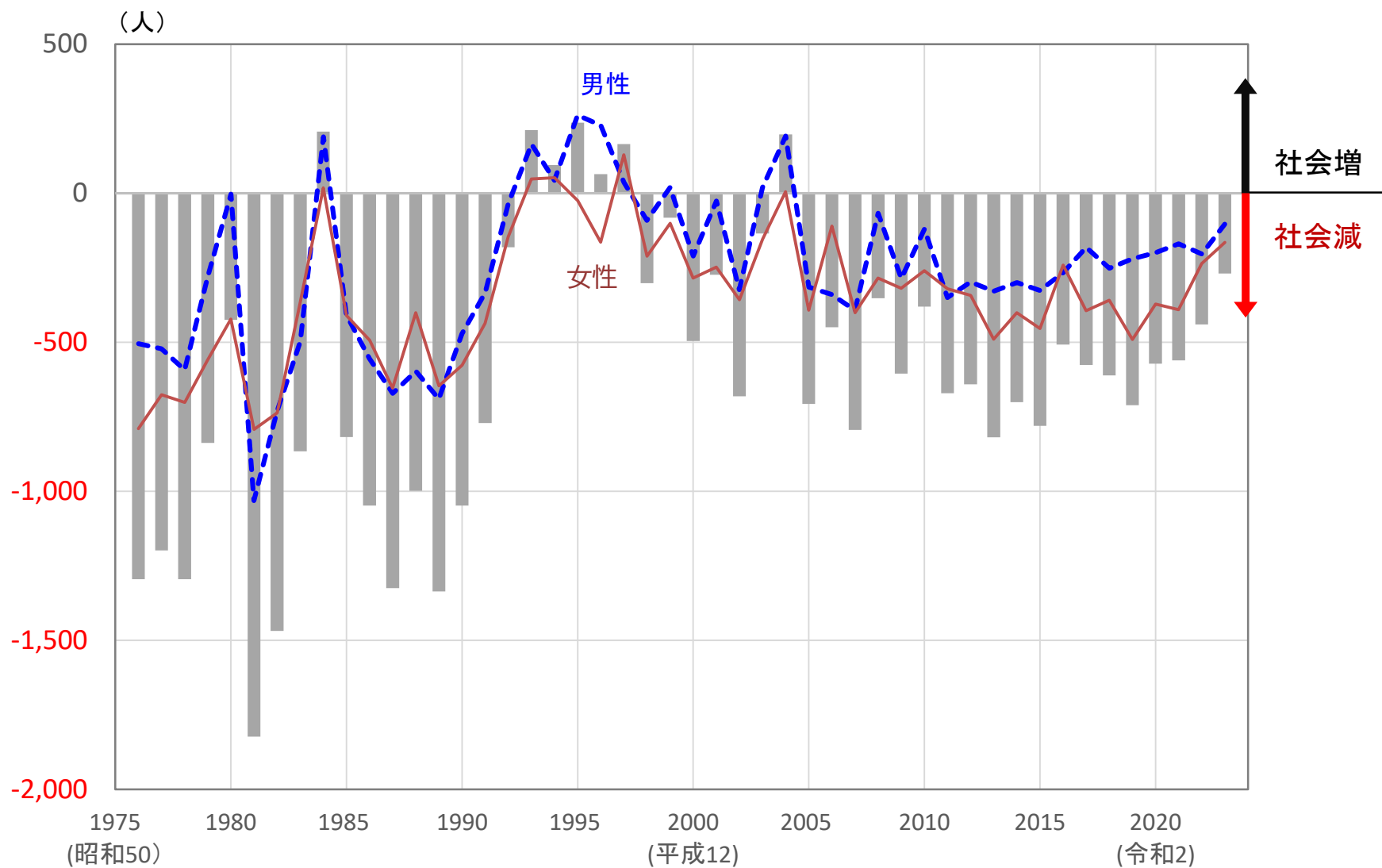
上越市の社会動態の推移 (1971~2023)



出所) 新潟県「人口移動調査結果報告」

👉 転入数・転出数の減少～横ばい傾向は、若年層の人口に大きく依存
両者の差(転出超過)は近年横ばい傾向

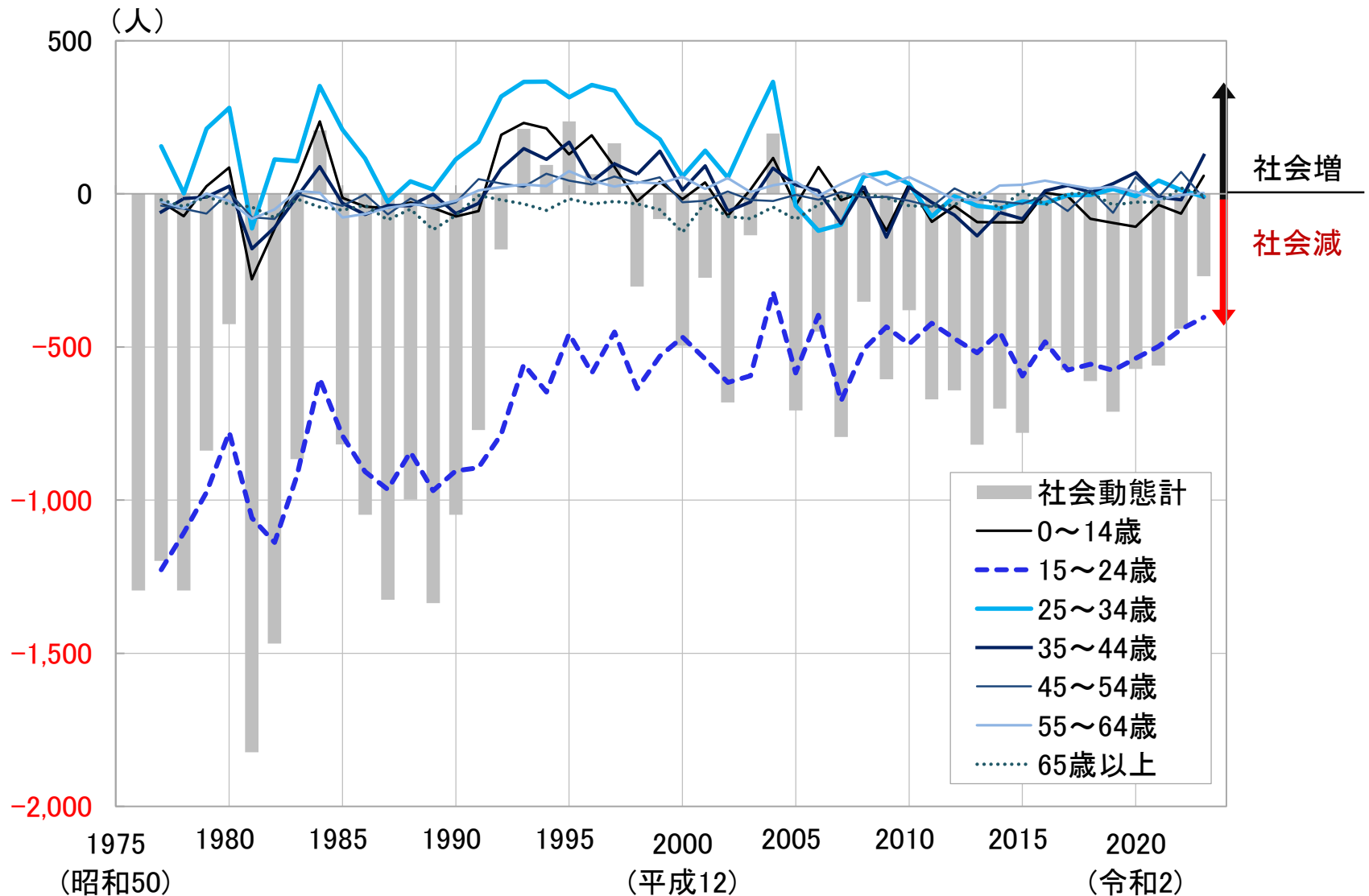
上越市の社会動態の推移（性別：1976～2023）



男女とも、継続的に転出超過が続いている
近年は女性と男性の差に開きがみられる(女性の方が転出傾向が強い)

出所) 新潟県「人口移動調査結果報告」

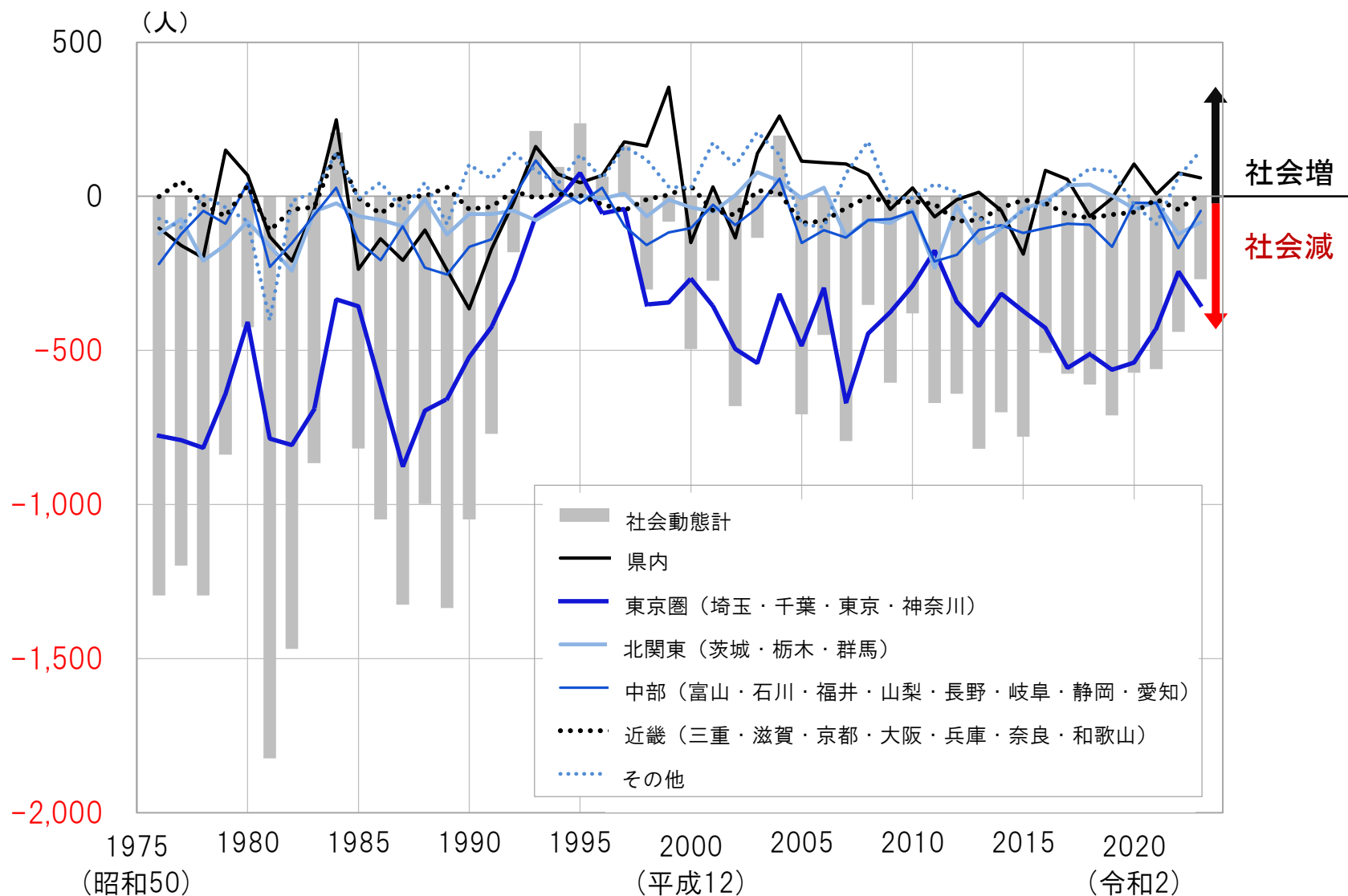
上越市の社会動態の推移（年齢別：1976～2023）



👉 10代後半～20代前半は、継続的にマイナス
20代後半～30代前半は、最近15年間でマイナスになることが多い

出所) 新潟県「人口移動調査結果報告」

上越市の社会動態の推移（地域別：1976～2023）



出所）新潟県「人口移動調査結果報告」

👉 特に東京圏に対する転出超過が続く

上越市の転入・転出の動き（地域別×年齢別：2019～2023）

【男性】

男－差引		0-14歳	15-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65歳以上	合計
県内	糸魚川市	18	40	36	38	25	5	48	210
	妙高市	-23	41	86	33	25	17	0	179
	十日町・魚沼圏	-1	16	-23	-7	16	2	20	23
	柏崎・長岡圏	-10	-12	33	10	0	12	3	36
	新潟圏	-46	-87	-46	13	-12	-7	-21	-206
	その他県内	4	-8	11	5	5	0	10	27
	県内計	-58	-10	97	92	59	29	60	269
県外	北海道・東北	-28	-32	-8	-47	10	-11	-2	-118
	北関東	-14	-70	-34	-5	-9	-1	-3	-136
	東京圏	-22	-736	-110	10	-10	24	17	-827
	長野県	-5	-6	-1	-4	-10	-13	-5	-44
	北陸	-21	-42	-25	13	9	1	2	-63
	東海	-7	-44	-1	-20	-21	2	-6	-97
	近畿	-5	-54	2	-6	1	-9	-3	-74
	その他国内	-9	-19	-24	-1	0	-10	-10	-73
	国外	21	80	144	117	32	3	14	411
	県外計	-90	-923	-57	57	2	-14	4	-1,021
不詳		2	-21	-86	-34	-8	-3	-4	-154
総計		-146	-954	-46	115	53	12	60	-906

出所）上越市住民基本台帳をもとに独自集計

👉 周辺市町村からは転入超過、近年は国外からも転入超過
新潟市や東京周辺に対しては、転出超過（特に15-24歳の対東京圏が顕著）

上越市の転入・転出の動き（地域別×年齢別：2019～2023）

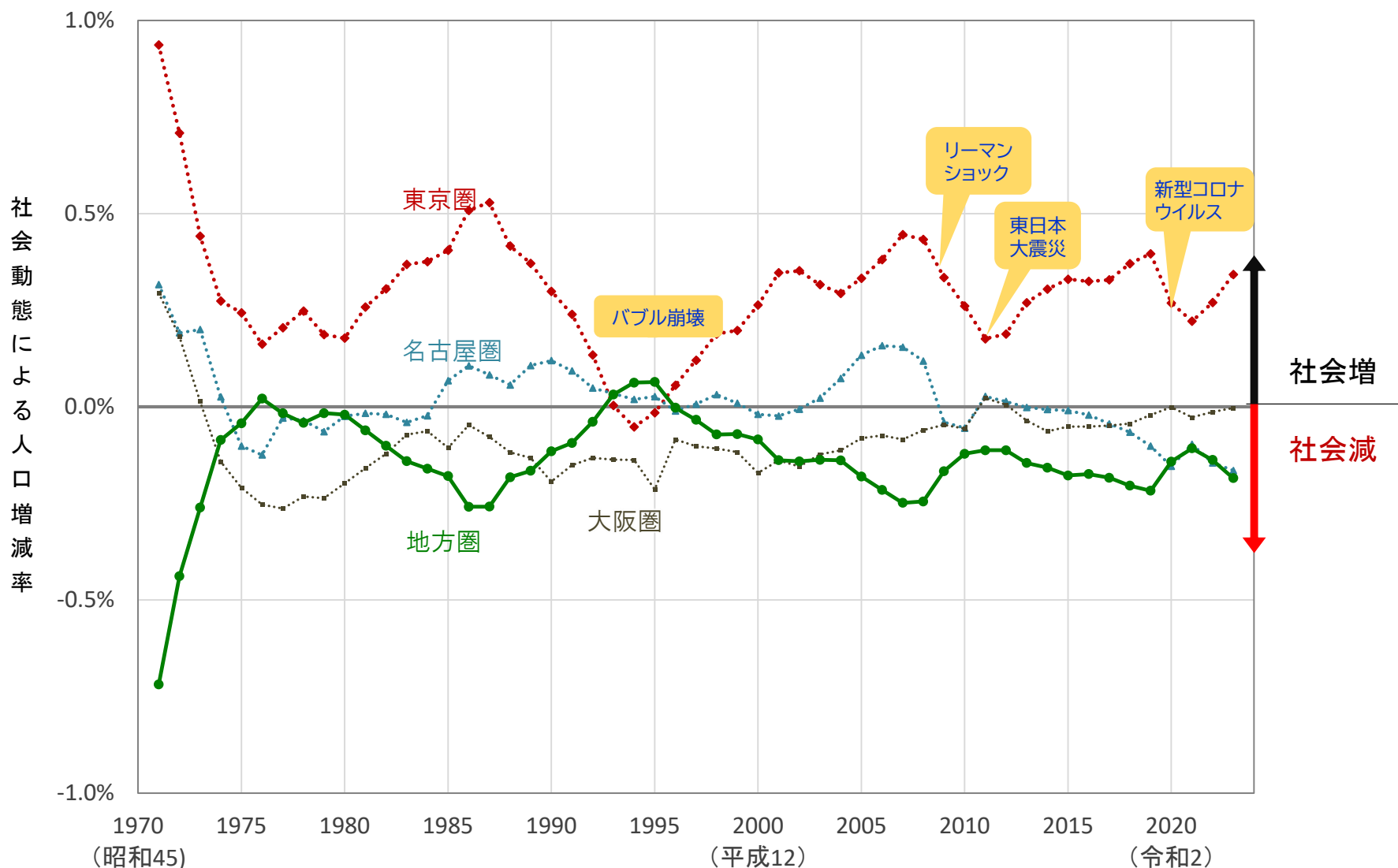
【女性】

女－差引		0-14歳	15-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65歳以上	合計
県内	糸魚川市	27	38	37	22	19	2	56	201
	妙高市	0	32	20	28	18	3	-40	61
	十日町・魚沼圏	1	26	2	9	12	4	20	74
	柏崎・長岡圏	5	-56	17	-17	10	-4	9	-36
	新潟圏	-42	-238	-16	-24	-21	2	-53	-392
	その他県内	-10	52	22	6	2	3	3	78
	県内計	-19	-146	82	24	40	10	-5	-14
県外	北海道・東北	-43	0	23	-41	-5	-1	2	-65
	北関東	-19	-52	-29	9	-19	-1	-18	-129
	東京圏	-13	-1,178	-42	24	-36	8	-86	-1,323
	長野県	-10	-41	-14	-8	11	-8	0	-70
	北陸	3	-29	6	-4	-3	3	0	-24
	東海	-15	-79	-18	2	-6	-5	-10	-131
	近畿	-6	-68	-15	-2	4	-5	-7	-99
	その他国内	-4	26	-3	7	-3	-8	-16	-1
	国外	28	43	91	73	11	8	12	266
	県外計	-79	-1,378	-1	60	-46	-9	-123	-1,576
不詳		2	-10	-30	-11	-5	-5	-5	-64
総計		-96	-1,534	51	73	-11	-4	-133	-1,654

出所）上越市住民基本台帳をもとに独自集計

👉 各地域に対する転入出の傾向は概ね男性と同様だが、
転出超過の規模は男性より大きい

国内の社会増減率の比較 (1971~2023)

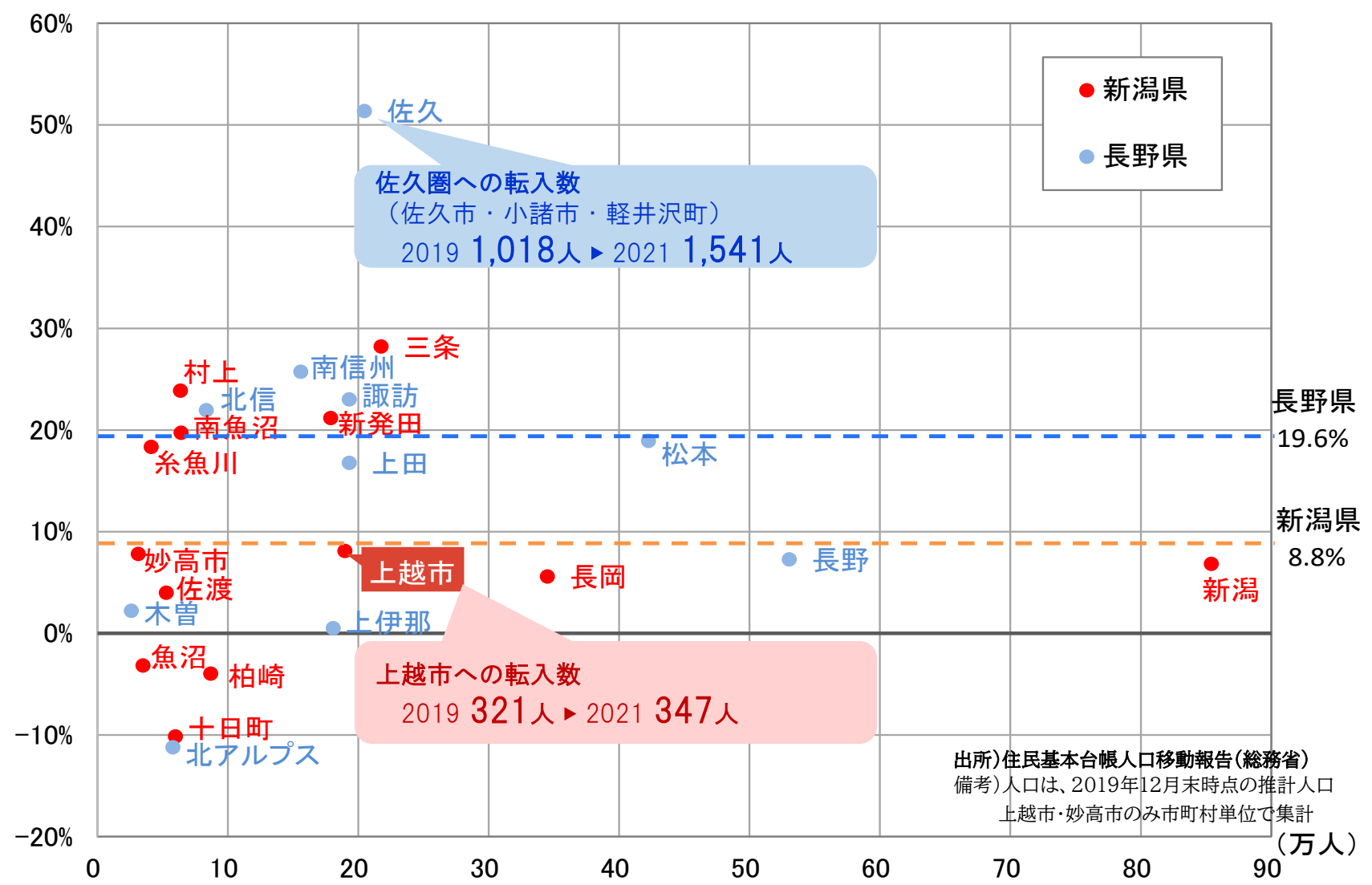


出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」



基本的には東京圏への人口集中が継続(社会情勢等による一時的な変化はあるが)
地方圏の動向は、東京圏とほぼ真逆の動き

コロナ禍における人口動態の例 東京都からの新潟県・長野県への転入数の増減率 (広域行政圏別：2019-21)



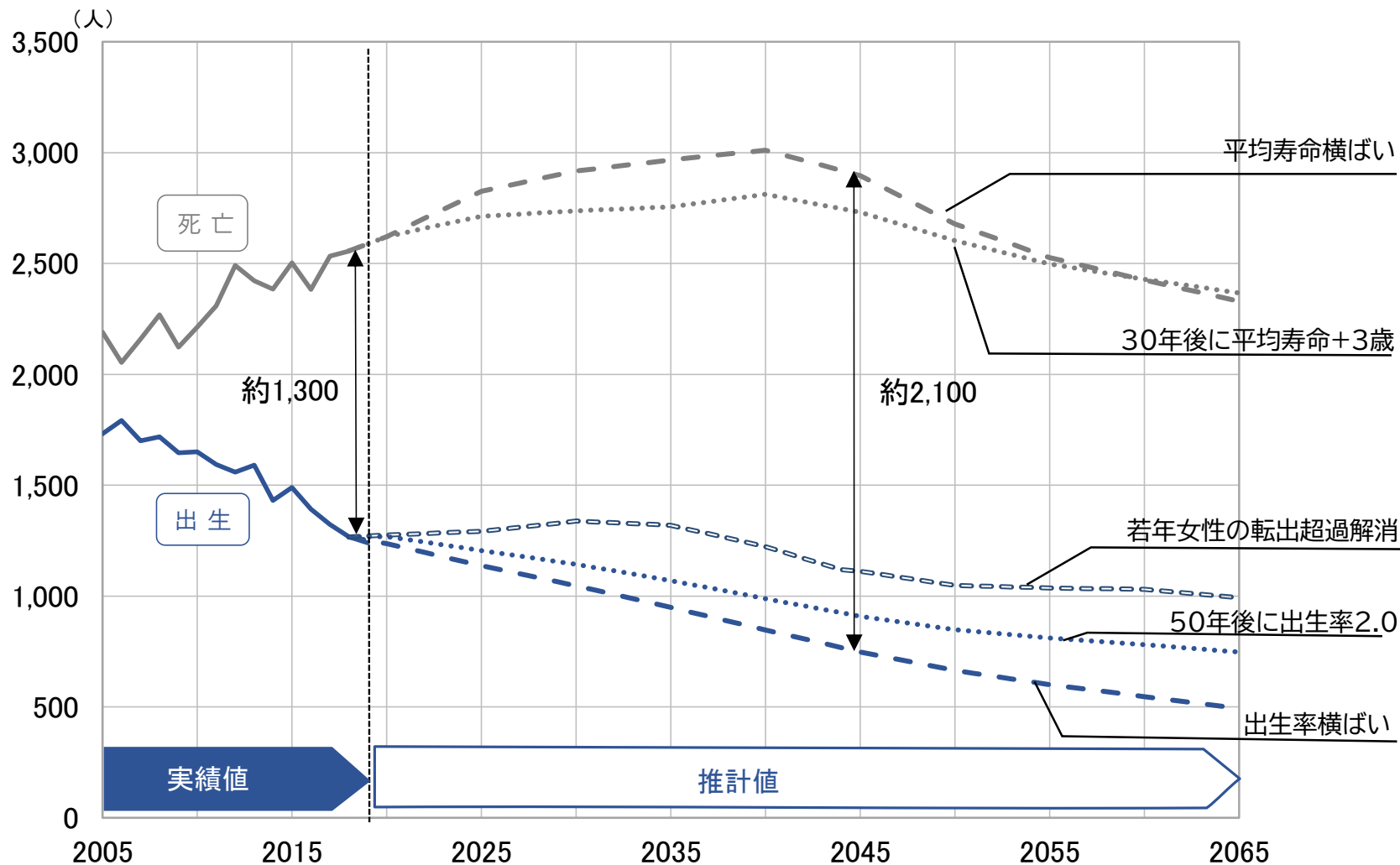
👉 コロナ禍に東京都からの転入が増加したか否かは、地域によってばらつきあり。
上越市では微増傾向ともいえるが、全体に影響を与えるほどではなかった。



3 将来推計人口



上越市の出生・死亡の将来推計（2005～2065推計）

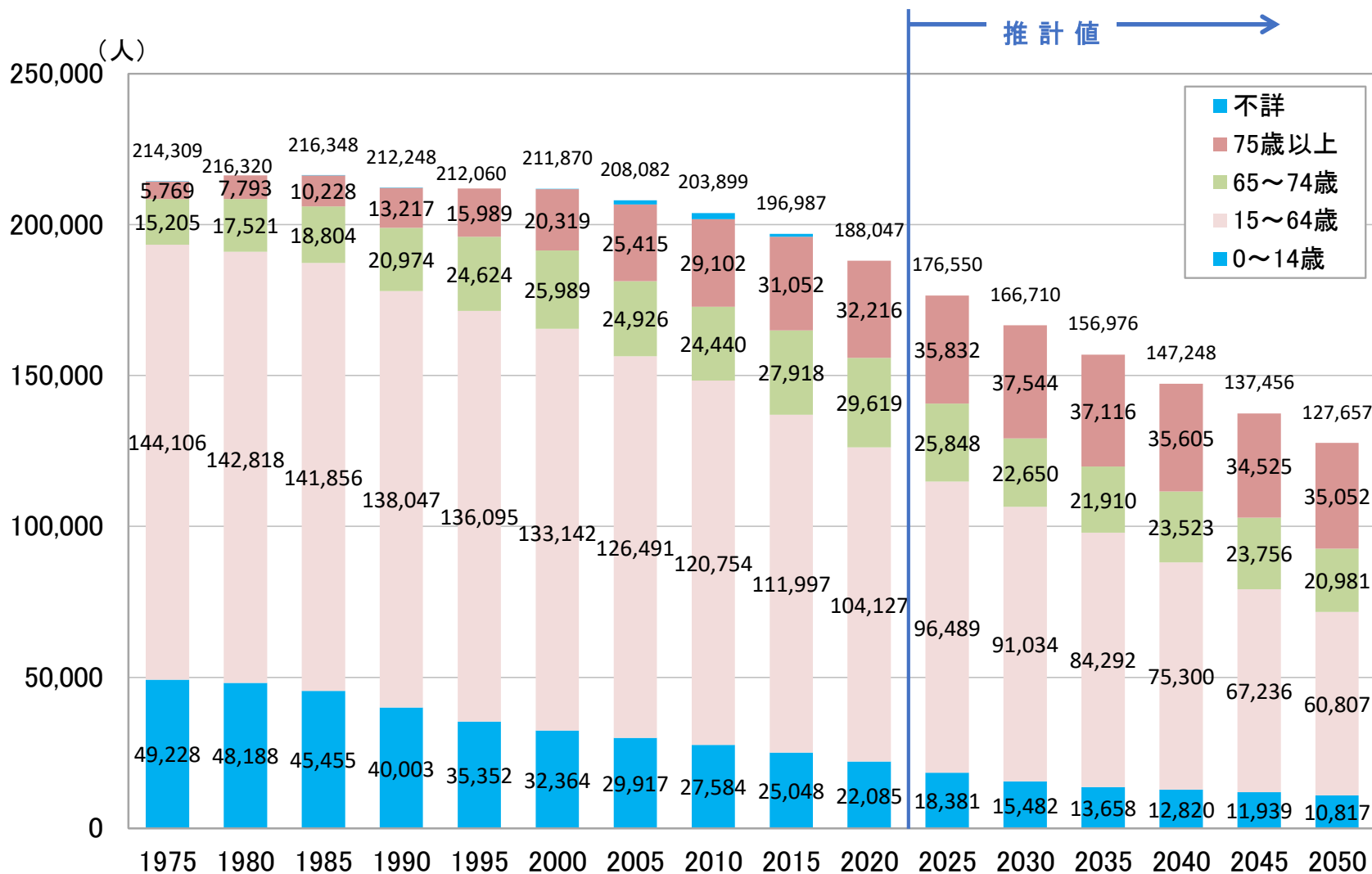


出所)国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」などをもとに作成



出生数や死亡数は、婚姻・出産の状況や平均寿命が多少変化しても大きく変わらない
転入出の影響は比較的大きい

上越市の将来推計人口（1975～2050中位推計）

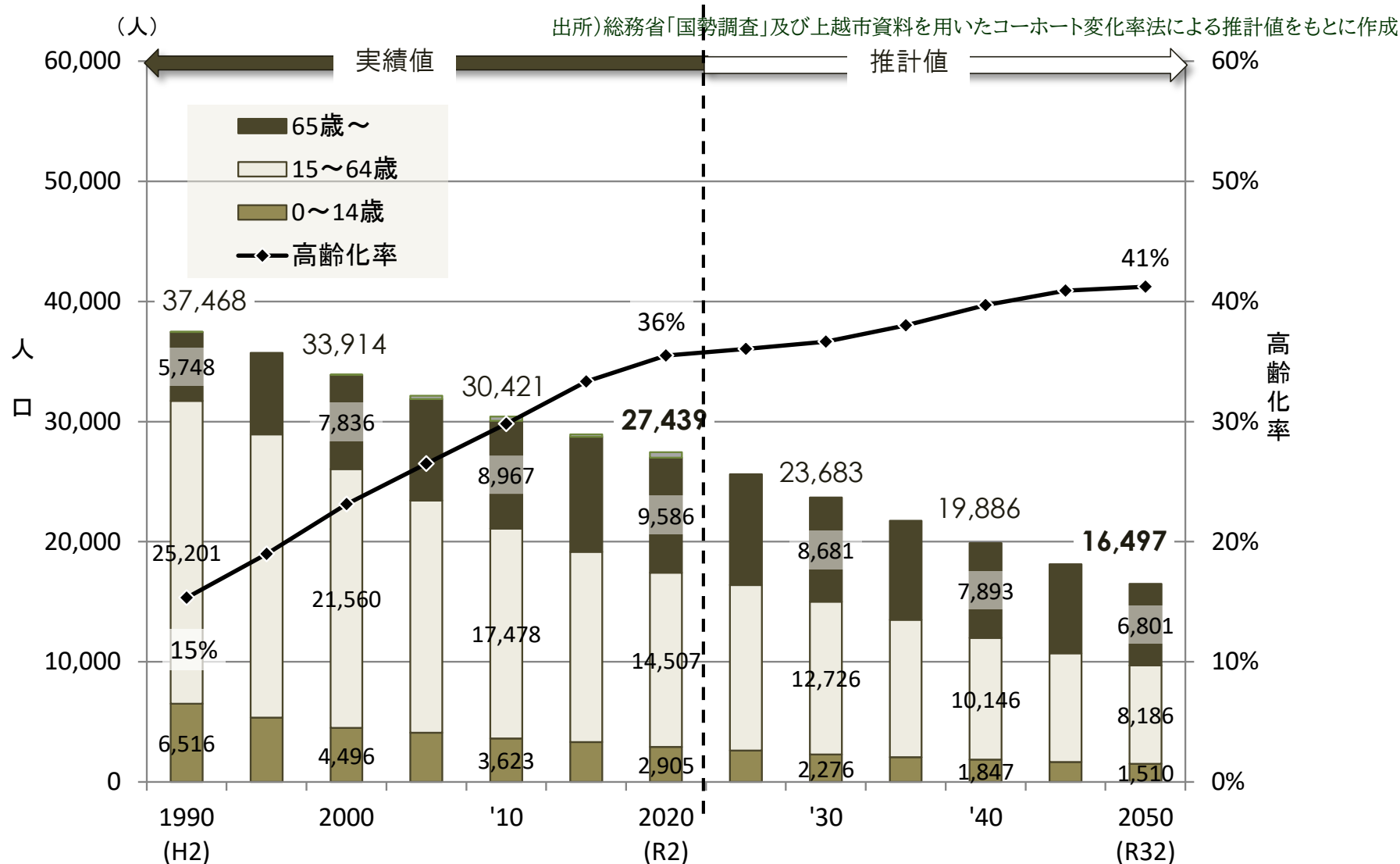


出所) 国立社会保障・人口問題研究所(2023)「日本の地域別将来推計人口」

最近の人口動態の傾向が続くならば、65歳以上人口はピーク状態か
75歳以上人口は2030年頃にピーク、15歳未満人口は今後30年間で4割減少と予測

将来推計人口（高田区 1990～2050推計）

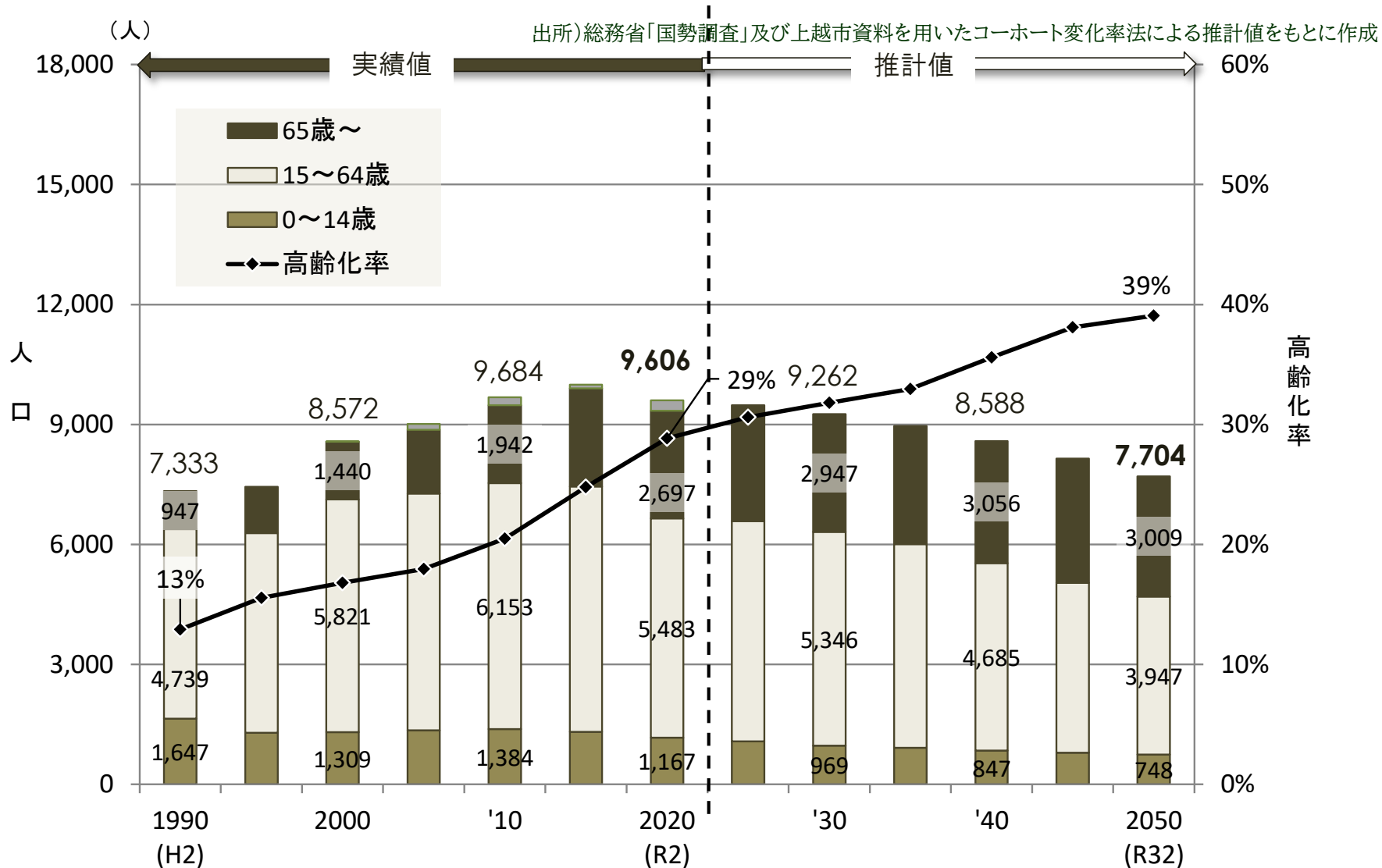
シナリオ1 仮に直近の人口動態が続いた場合



👉 このままのペースで進むと、30年後には4割減

将来推計人口（新道区 1990～2050推計）

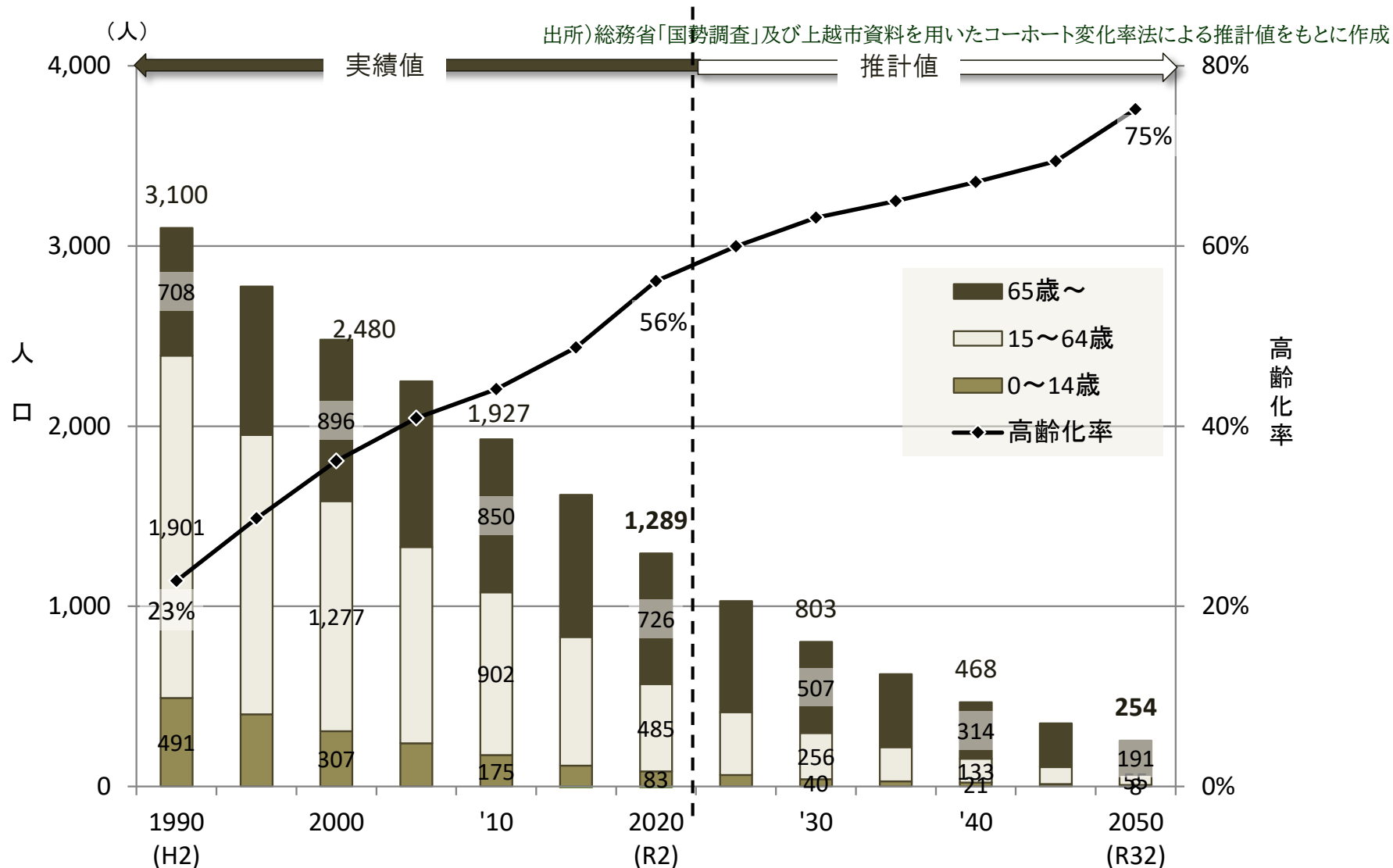
シナリオ1 仮に直近の人口動態が続いた場合



住宅地の開発が進んできたが、最近5年間で減少に転ずる
このままのペースで進むと、30年後には2割減

将来推計人口（大島区 1990～2050推計）

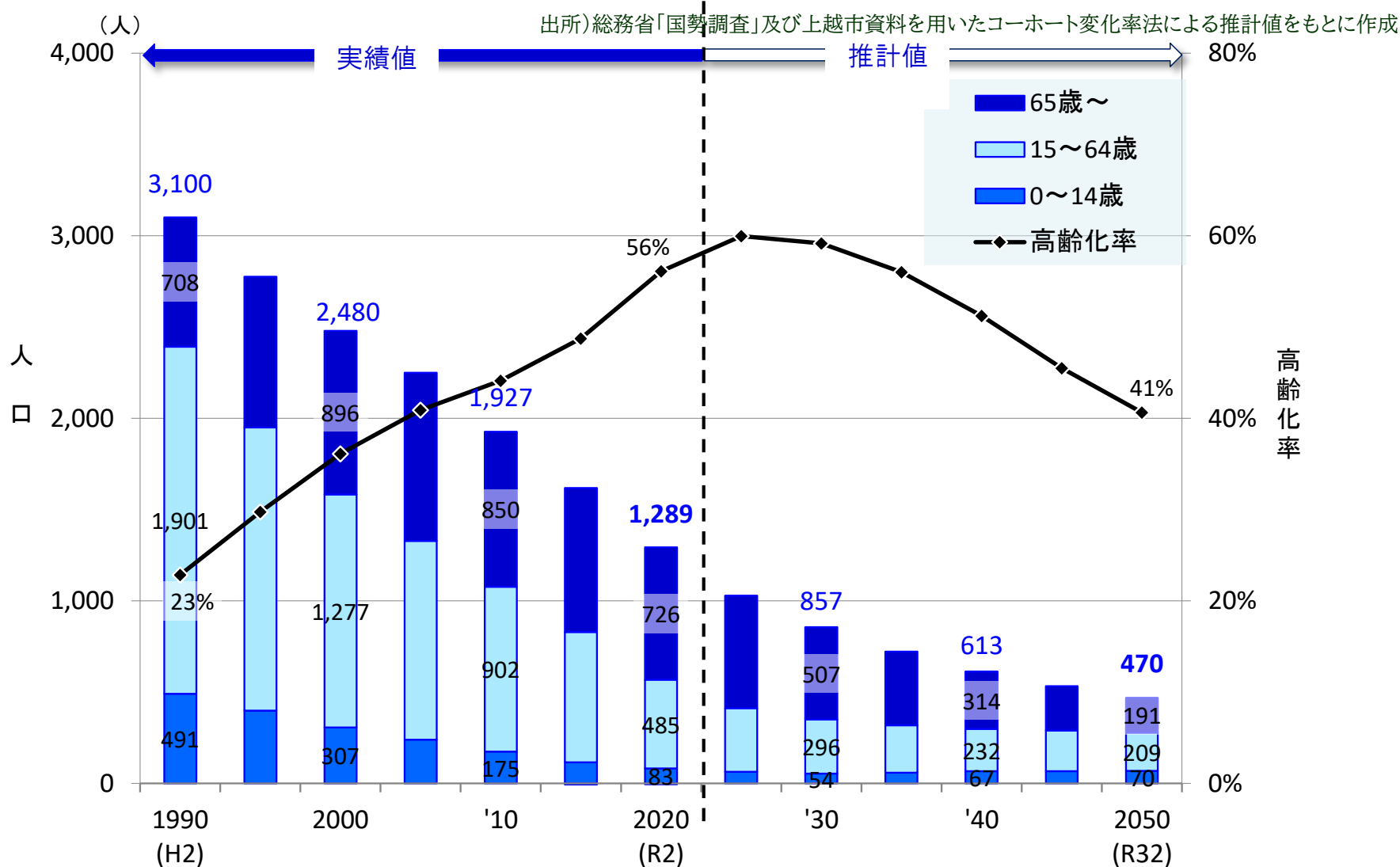
シナリオ1 仮に直近の人口動態が続いた場合



👉 このままのペースで進むと、30年後には8割減

将来推計人口（大島区 1990～2050推計）

シナリオ2 持続可能な状態を目指した場合



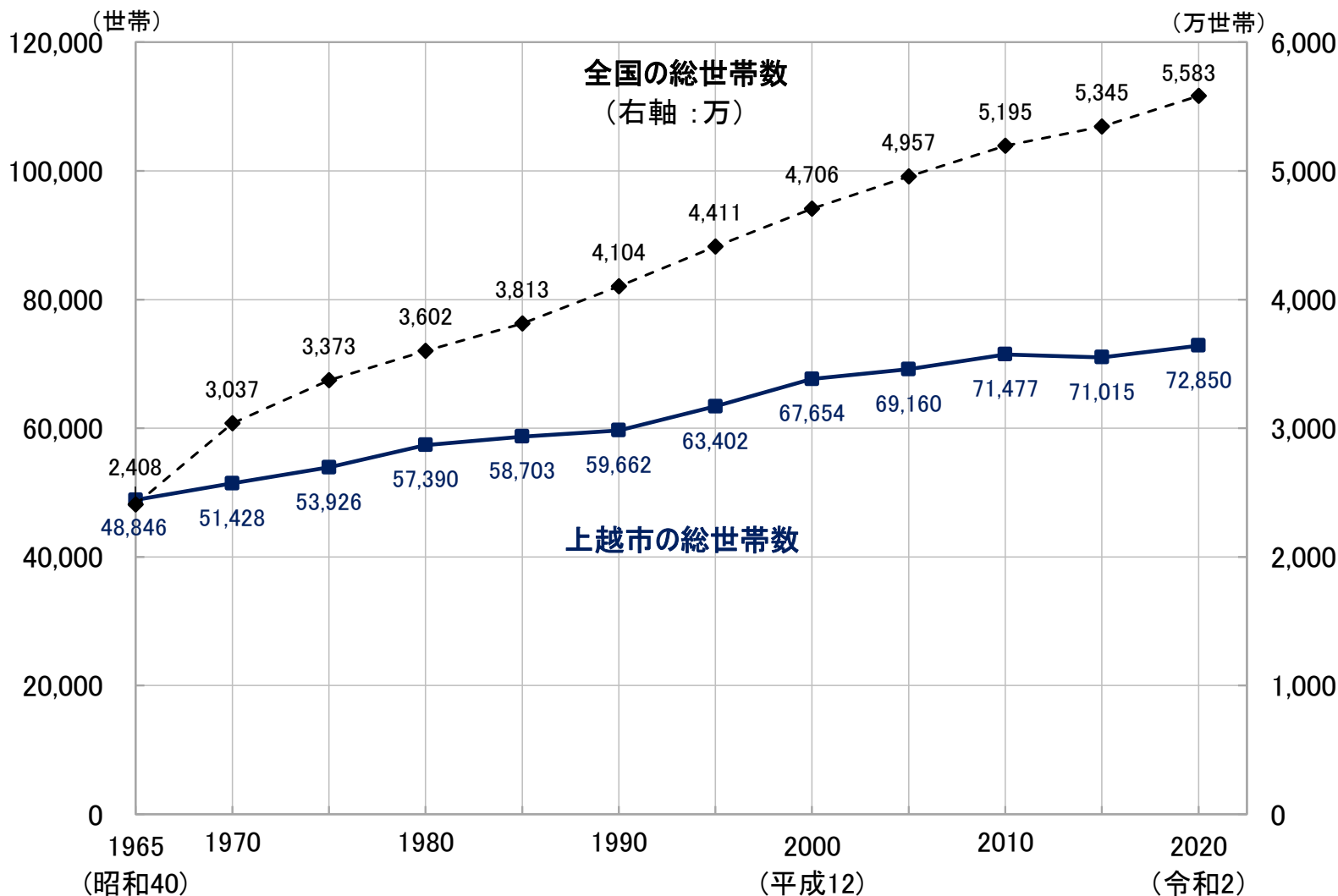
👉 若年層の転入増（転出減）をプラス10人実現できれば
30年後には6割強の減少でとどまり、人口はいずれ安定する。



4 世帯数



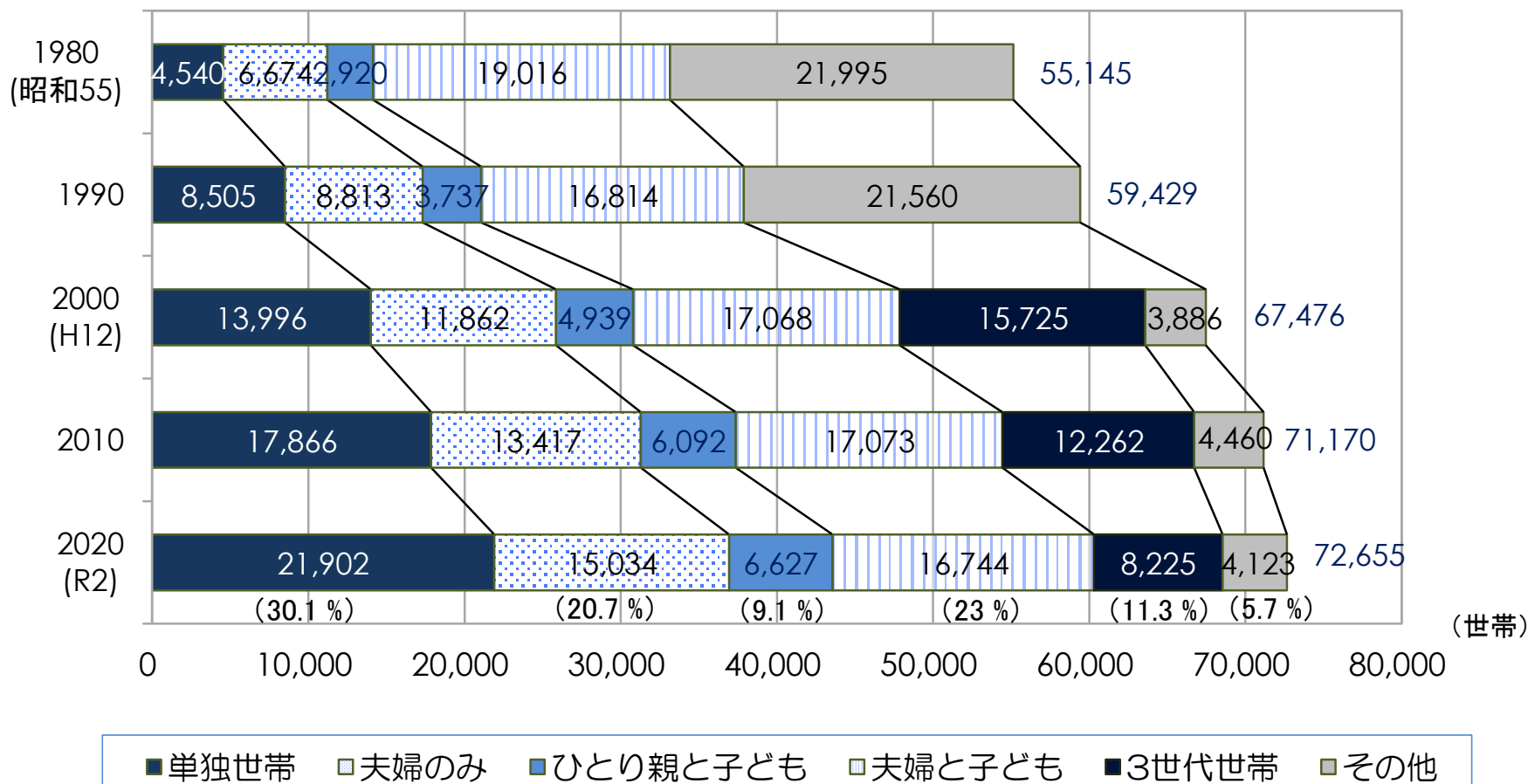
上越市の総世帯数の推移 (1965~2020)



出所) 総務省「国勢調査」

👉 人口減少に関わらず、核家族化等により世帯数は増加傾向が続いてきた。近年は横ばい傾向

上越市の世帯構成の推移 (1980~2020)

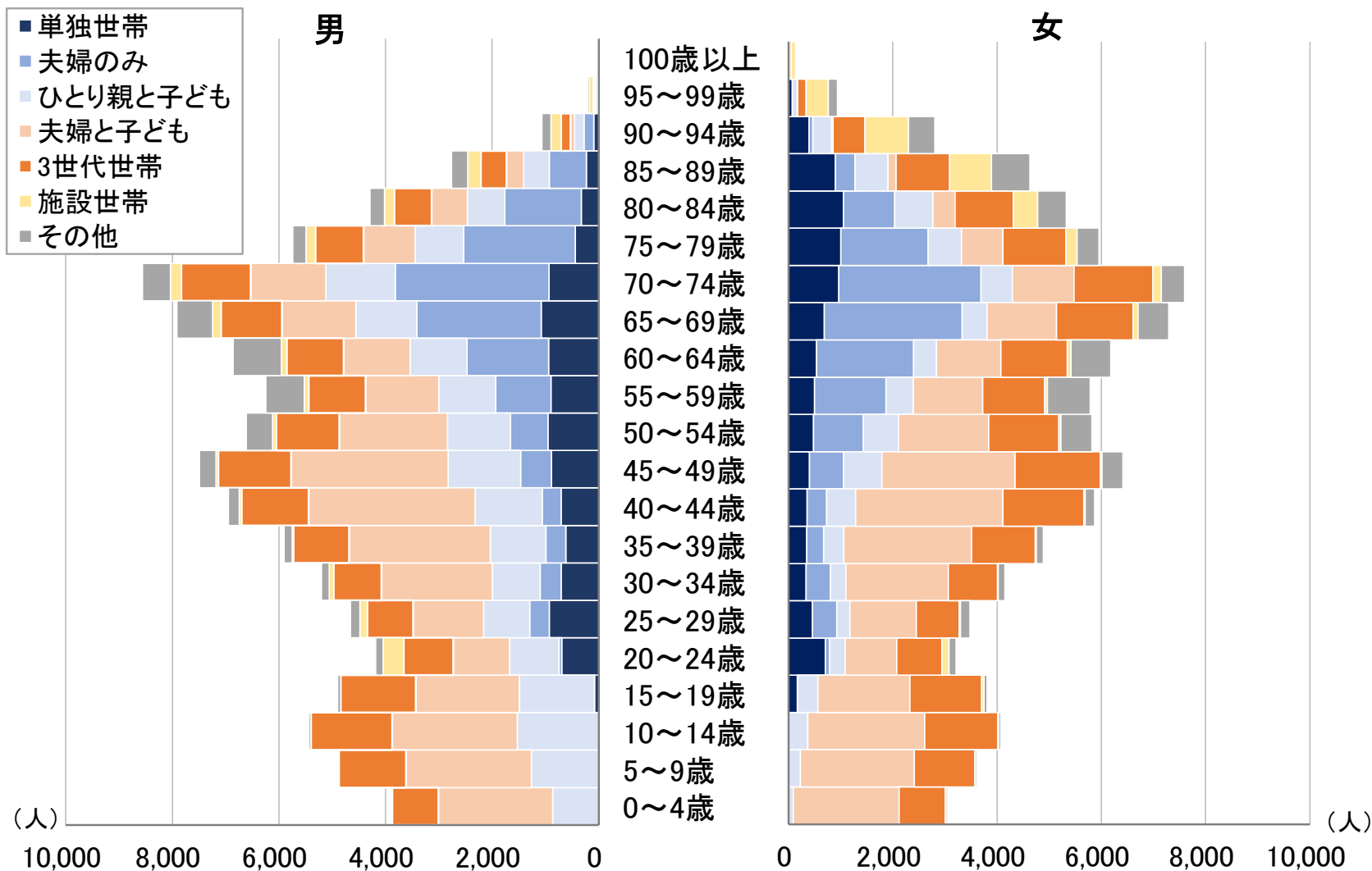


出所) 総務省「国勢調査」

備考) 一般世帯数のみ(施設等の世帯は含まない)。1980年、1990年の3世代世帯数は「その他」に含まれる。

👉 30年前は、3世代世帯、夫婦と子ども世帯、それ以外がほぼ1/3ずつだった。現在は、単身世帯が3割を占めており、今後も増加の見込み。

上越市の年齢別世帯構成の分布 (2020)



👉 50代前半までは「夫婦と子ども」世帯が多いが、
60代以降は「夫婦のみ」世帯や「単独」世帯が増加

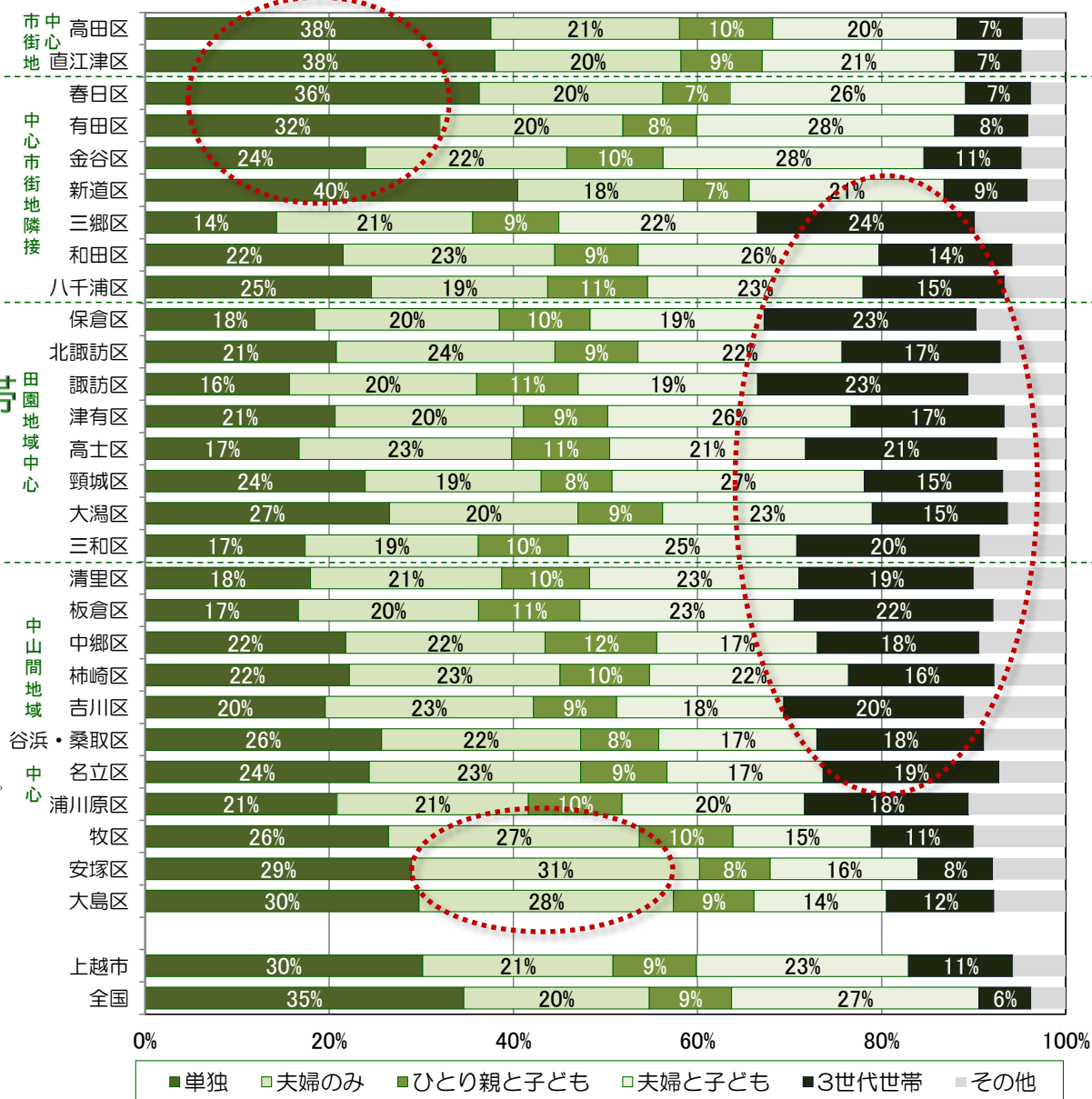
上越市内地区別の世帯構成 (2020)

単身世帯が多い

3世代世帯が多い

夫婦のみ世帯が多い

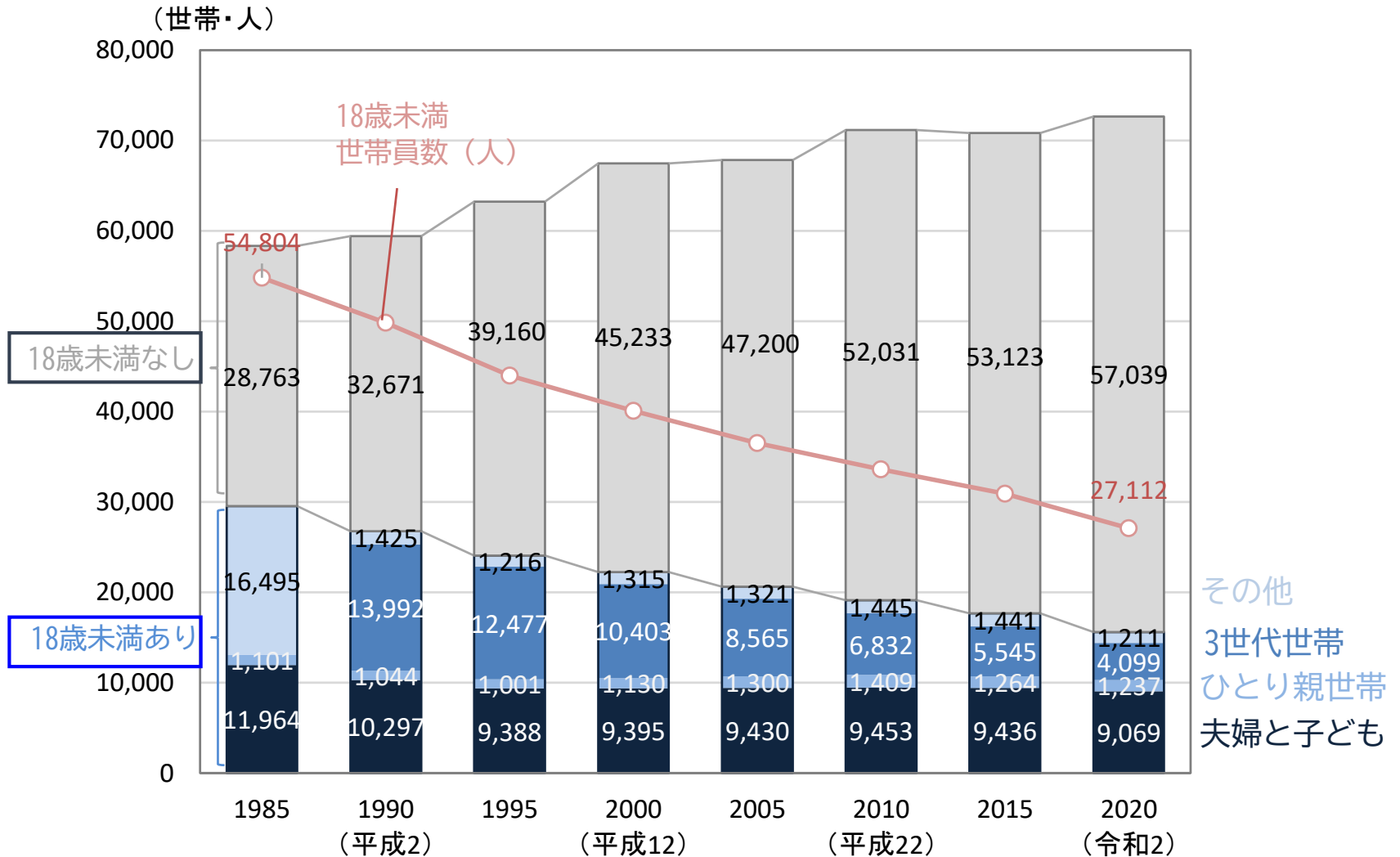
(高齢者のみ世帯が多い)



2.22	18%	29%
2.24	18%	24%
2.33	24%	15%
2.47	27%	17%
2.64	25%	23%
2.28	21%	18%
3.13	26%	19%
2.77	26%	19%
2.71	23%	26%
2.97	20%	28%
2.79	19%	22%
3.06	23%	26%
2.80	24%	21%
2.94	21%	29%
2.79	25%	18%
2.65	21%	24%
3.02	25%	25%
2.94	23%	28%
3.04	24%	27%
2.69	17%	31%
2.72	20%	32%
2.84	18%	32%
2.69	13%	41%
2.74	17%	38%
2.86	21%	30%
2.43	12%	44%
2.27	10%	45%
2.35	12%	47%
2.51	21%	24%
2.27	19%	23%
1世帯当たりの人数	18歳未満が いる世帯	65歳以上の みの世帯

出所) 総務省「国勢調査」

上越市の子どもがいる世帯数の推移（1985～2020）

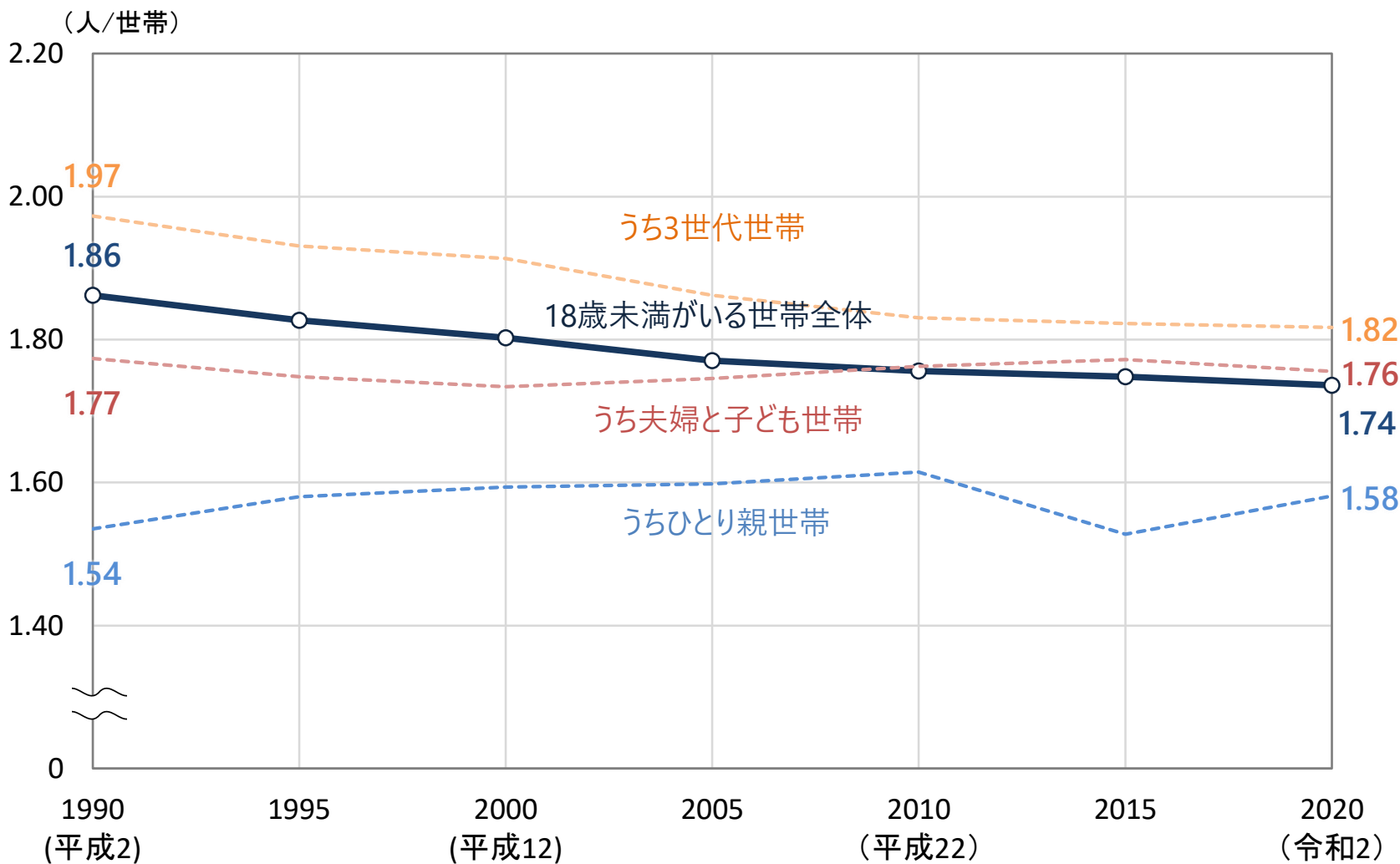


出所) 総務省「国勢調査」

備考) 施設等の世帯を除く。また、1985年の3世代世帯はその他に含まれる。

👉 18歳未満がいる世帯は減少傾向 1990年 45% → 2020年 21%
(このうち3世代世帯が大きく減少 24% 6%)

上越市の1世帯当たりの子どもの数の推移(1990~2020)



出所) 総務省「国勢調査」

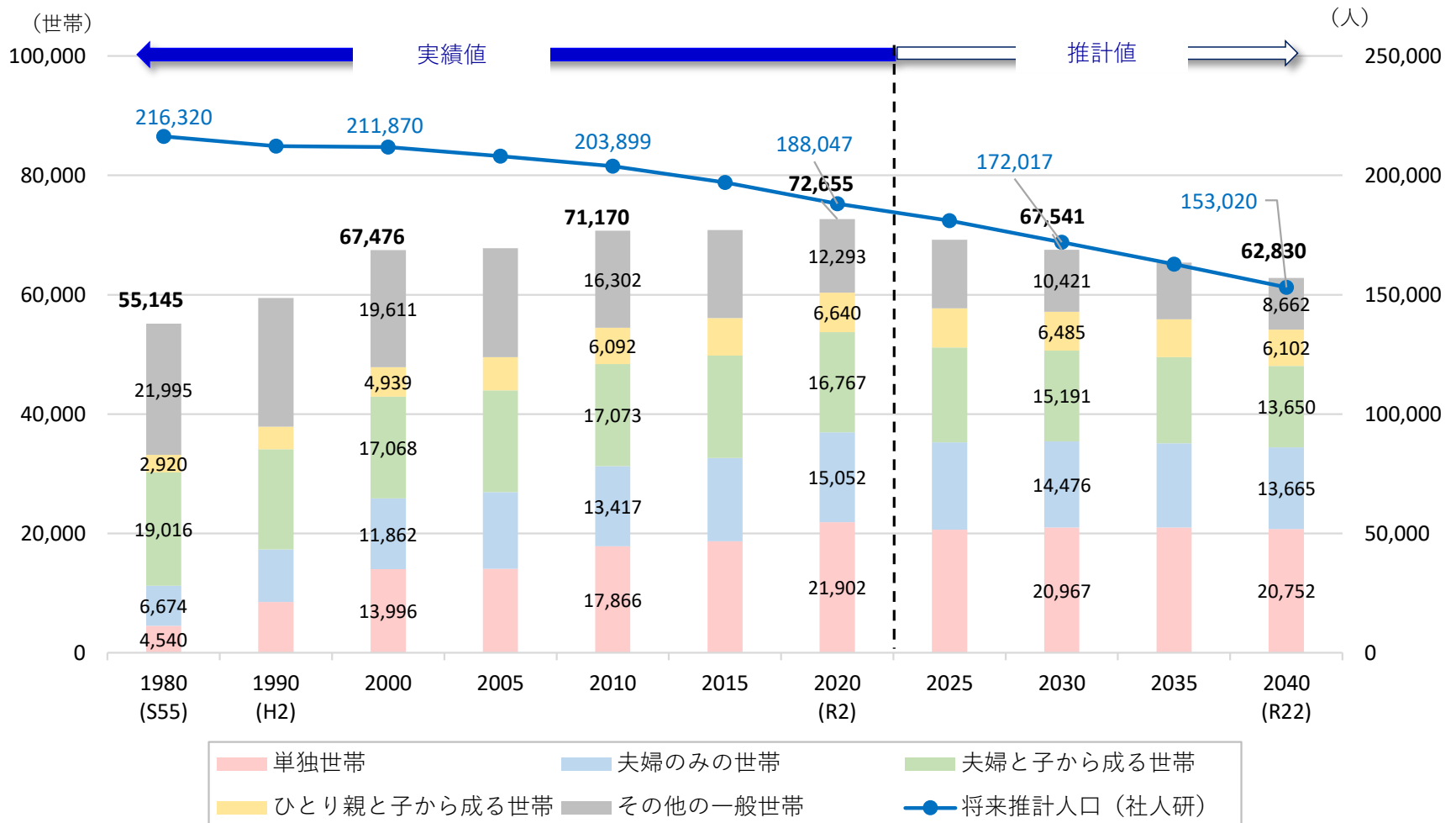
備考) 18歳未満の世帯員数を18歳未満がいる世帯数で割った値。施設等の世帯を除く



子どものいる世帯の子どもの数は微減から横ばい。

3世代世帯の子どもの数はやや多いが、他の世帯構成のとの差は縮小。

上越市の将来推計世帯数（1980～2040推計）



出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」(2019年推計) 及び「日本の地域別将来推計人口(都道府県・市区町村別)」(2018年推計)をもとに作成



これまでの総人口が減っても世帯が細分化されることで世帯数は増加。
 今後は世帯数についても減少に転ずることが見込まれる。



おわりに



上越市の人口・世帯数の動向（概要）

1 上越市の人口について

- 上越市の人口は、①出生数の減少（少子化の進行）、②死亡数の増加（高齢化の進行）、③転入を上回る転出（＝転出超過）によって減少傾向が続いている。
 - ① 出生数の減少は、若年女性人口の減少、独身割合の増加、晩婚化・晩産化などが直接的な要因である。
 - ② 死亡数の増加は、高齢者人口の増加が主な要因であるが、平均寿命の延伸によりそのスピードは抑えられている。
 - ③ 転出超過については、特に若年層・女性を中心に、東京圏などへの転出が目立っている。一方、近年は国外からの転入増により、人口減少が若干緩和されている。
- このままのペースで進むと、今後さらに人口減少が進む可能性が高い。
- 人口減少自体を食い止めることは極めて困難であり、ある程度の減少を前提としたまちづくりへの転換が必要。
- 一方、持続可能な当市の発展のためには、人口減少の要因を踏まえ、人口の安定化を目指してそのペースを緩和させる取組もあわせて必要。

＜市内地区別の人口について＞

- ・市内地区別にみた人口増減の動きや人口・世帯構成には大きな差がある。
- ・特に中山間地域や中心市街地での人口減少が続いている。
- ・市街地郊外では住宅開発等による人口増加が続いていたが、一部地区では減少に転じ始めた。

2 上越市の世帯数について

- ・上越市の世帯数は、人口減少が続く中でも増加を続けてきたが、2025年以降は減少に転じることが予想され、空き家の増加など人口減少の影響が時間遅れで波及していくことが見込まれる。
- ・世帯構成の内訳をみると、3世代世帯や子どもがいる世帯が大きく減少し、単独世帯（1人暮らし）が大きく増加するなど、核家族化を越えて单身化が進んでおり、孤立化への対応等が求められる。

ご案内

ニュースレター「創造行政」では、人口に関する
より詳細な分析結果をご紹介します。

（「データでみる上越」の記事をご覧ください。）

<https://www.city.joetsu.niigata.jp/site/souzou-gyosei/souzou-jouho-news.html>

